

授業科目名： 日本語研究基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大池茂樹、後藤英次、宮内佐夜香 担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語、高等学校 書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
日本語の研究の中で、各教員により次の3テーマとする。 (大池) 書道文化及び文字文化について、史実的実証的な面をとりあげて解説する。 (後藤) 古代から中世前期までの史的变化に関わるものを取りあげて解説する。 (宮内) 中世後期以降現代に至るまでの史的变化に関わるものを取りあげて解説する。 到達目標は次のとおり。 ・ 日本語を研究するために必要な基礎的な研究手法を身に付ける。 ・ 日本語に関する代表的な論考を読んで理解する。 ・ 研究に対する評価、批判的な考証ができる。 ・ 研究倫理のルールについて理解し実践することができる。			
授業の概要			
授業形態を講義（演習を含む）とする。日本語に関わる諸分野における基礎的な研究を紹介し、その方法、広がり、後続の研究への展開等について解説する。履修者自身が研究の方法やフィールドについて再考又は再確認するために必要な、基礎的な研究手法を身につけることを目標とする。具体的には、日本語に関する代表的な論考を読んで理解するとともに、批判的な問い直しも行う。その延長線上での研究の可能性や方向性についても検討する。			
授業計画			
第1回：文字文化論1 漢字の字源研究（担当：大池）			
第2回：文字文化論2 漢字の字体・字形の変遷に関する研究（担当：大池）			
第3回：文字文化論3 漢字を使用する社会と文化について（担当：大池）			
第4回：文字文化論4 仮名の成立と変遷に関する研究（担当：大池）			
第5回：文字文化論5 仮名を使用する社会と文化について（担当：大池）			
第6回：古代日本語史1 古代日本語の音韻についての研究（担当：後藤）			
第7回：古代日本語史2 古代日本語の表記についての研究（担当：後藤）			
第8回：古代日本語史3 古代日本語の文法についての研究（担当：後藤）			
第9回：古代日本語史4 古代日本語の語彙についての研究（担当：後藤）			
第10回：古代日本語史5 古代日本語の文体についての研究（担当：後藤）			

第11回：近代日本語史1 近代日本語の音韻についての研究（担当：宮内）
 第12回：近代日本語史2 近代日本語の表記についての研究（担当：宮内）
 第13回：近代日本語史3 近代日本語の文法についての研究（担当：宮内）
 第14回：近代日本語史4 近代日本語の語彙についての研究（担当：宮内）
 第15回：近代日本語史5 近代日本語の文体についての研究（担当：宮内）
 定期試験は実施しない。

テキスト

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

『書道テキスト 書道学概論』（大東文化大学書道研究所編、二玄社）

『ガイドブック日本語史調査法』（大木一夫編、ひつじ書房）

『コーパスで学ぶ日本語学 日本語の歴史』（田中牧郎編、朝倉書店）

『シリーズ日本語史』全4巻（金水敏他編、岩波書店）

学生に対する評価

平常点（50%）、課題・レポート（50%）

授業科目名： 日本文学研究基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 酒井敏、柳沢昌紀、中川豊
			担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語、高等学校 書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
日本文学と関連分野における基礎的な研究方法やフィールドを理解し、自身の研究対象を再考又は再確認して今後の研究を進めるのに必要な基礎的な研究方法を身に付けている。			
授業の概要			
授業形態は講義（一部演習を含む）。日本文学に関わる諸分野について、基礎的な研究を紹介し、その方法・広がり・後続の研究への展開等を解説する。具体的には、各分野の代表的な論考を読んで理解を深めるとともに批判的な問い直しを行い、今後研究を進める可能性や方向性を検討する。その過程で、必要に応じて演習形式による授業を行う。			
授業計画			
第1回：近代文学研究の方法（1） 文学史研究について（担当：酒井敏）			
第2回：近代文学研究の方法（2） 同時代人の回想を利用した作家研究（担当：酒井敏）			
第3回：近代文学研究の方法（3） より実証的な伝記研究のために（担当：酒井敏）			
第4回：近代文学研究の方法（4） 印象批評から客観的な読解へ（担当：酒井敏）			
第5回：近代文学研究の方法（5） 資料・史料の活用と実証研究（担当：酒井敏）			
第6回：近世文学研究の方法（1） 近世文学の歩みと展開（担当：柳沢昌紀）			
第7回：近世文学研究の方法（2） 近世散文（戯作）研究を中心に（担当：柳沢昌紀）			
第8回：近世文学研究の方法（3） 近世歌舞伎や浄瑠璃の研究を中心に（担当：柳沢昌紀）			
第9回：近世文学研究の方法（4） 近世俳諧と韻文の研究を中心に（担当：柳沢昌紀）			
第10回：近世文学研究の方法（5） 近世の出版とメディアの研究を中心に（担当：柳沢昌紀）			
第11回：図書館史研究の方法（1） 図書館史と国文学研究（担当：中川豊）			
第12回：図書館史研究の方法（2） 上代の図書館を考える（担当：中川豊）			
第13回：図書館史研究の方法（3） 中古の図書館を考える（担当：中川豊）			
第14回：図書館史研究の方法（4） 中世の図書館を考える（担当：中川豊）			
第15回：図書館史研究の方法（5） 近世の図書館を考える（担当：中川豊）			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
特定のテキストは定めず、必要に応じて各担当教員が作成・配布する。			

参考書・参考資料等
その都度、各担当教員が指示する。
学生に対する評価
各教員が、レポート試験（80％）と授業中の発言や演習活動の内容（20％）によって評価した上で、その結果を総合して評価を決定する。

授業科目名： 日本語研究特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森山真吾、宮澤太聡、平塚雄亮
			担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語、高等学校 書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
日本語に関わる諸分野の研究紹介と分析。履修者自身が様々な研究手法を身につけて、研究の方法やフィールドについて再考又は再確認できるようになる。			
授業の概要			
日本語に関わる諸分野における新しい研究を紹介し、その方法、独自性、今後の展開の見通し等について議論する。日本語に関する最先端の論考を読んで理解するとともに、その有効性について討議する。また、その延長線上での研究の可能性や方向性についても検討する。授業形態を講義（演習を含む）とする。			
（担当：森山）日本語教育学研究の動向と展望について理解を深める。幅広い研究領域を知ること、目的に合致した研究手法を適切に判断、設計できるようになる。			
（担当：宮澤）文字・音声を中心としたコミュニケーションの実態を捉えるために、文章・談話論研究の動向と展望について理解を深める。また、その近接分野へも射程を伸ばすことで、多角的な観点から対象へ接近する方法を検討する。			
（担当：平塚）これまでの方言研究の流れを振り返るとともに、最新の研究動向および今後の展望について解説する。自身の研究の方向性を定めるにあたり、どのような研究手法を採用すべきかを検討する。			
授業計画			
第1回：ICTと日本語教育（担当：森山）			
第2回：やさしい日本語と多文化共生（担当：森山）			
第3回：熟達度判定と日本語教育の参照枠（担当：森山）			
第4回：社会文化的アプローチと日本語教育（担当：森山）			
第5回：批判的リテラシーと教育実践（担当：森山）			
第6回：「文章・談話論」について 「文章・談話論」という概念の多様性（担当：宮澤）			
第7回：「文段」の統括機能に基づく言語形態的指標① 提題・叙述表現（担当：宮澤）			
第8回：「文段」の統括機能に基づく言語形態的指標② 接続表現（担当：宮澤）			
第9回：「文段」の統括機能に基づく言語形態的指標③ 指示表現（担当：宮澤）			
第10回：「文段」の統括機能に基づく言語形態的指標④ 反復・省略表現（担当：宮澤）			

第11回：方言研究の歴史（担当：平塚）

第12回：方言の記述文法書（担当：平塚）

第13回：方言の辞書（担当：平塚）

第14回：方言のテキスト（担当：平塚）

第15回：コーパスを用いた方言研究（担当：平塚）

定期試験なし

テキスト

指定図書なし

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

森山担当分... 40%（平常点10%、課題・レポート30%）

宮澤担当分... 30%（平常点10%、課題・レポート20%）

平塚担当分... 30%（平常点10%、課題・レポート20%）

授業科目名： 日本文学研究特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 甘露純規・徳竹由明・勝亦志織 担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語、高等学校 書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 平安・中世・近代の文学について多角的な視野と知識を身につけることができる			
授業の概要 授業形態を講義（演習を含む）とする。日本文学に関わる諸分野における基礎的な研究を紹介し、その方法、広がり、後続の研究への展開等について解説する。履修者自身が研究の方法やフィールドについて再考又は再確認するために必要な、基礎的な研究手法を身につけることを目標とする。具体的には、日本文学に関する代表的な論考を読んで理解するとともに、批判的な問い直しも行う。その延長線上での研究の可能性や方向性についても検討する。			
授業計画 第1回：（平安文学）平安時代文学の概観と『枕草子』諸本について。（勝亦担当） 第2回：（平安文学）三巻本『枕草子』における「木の花は」章段を読む。（勝亦担当） 第3回：（平安文学）能因本『枕草子』における「木の花は」章段を読む。（勝亦担当） 第4回：（平安文学）前田家本・堺本の諸相と三巻本との比較。（勝亦担当） 第5回：（平安文学）『枕草子』跋文の諸本比較とまとめ。（勝亦担当） 第6回：（中世文学）日本の中世文学の解説。『平家物語』・『十訓抄』解題 第7回：（中世文学）読み本系『平家物語』「木曾最期」を読む。（徳竹担当） 第8回：（中世文学）語り本系『平家物語』「木曾最期」を読む。両系統の比較とまとめ（徳竹担当） 第9回：（中世文学）『十訓抄』第六編第十七話「前九年合戦」譚を読む。比較とまとめ（徳竹担当） 第10回：（中世文学）他文献の「前九年合戦」譚を読む。比較とまとめ。（徳竹担当） 第11回：明治期以前の印刷技術（甘露担当） 第12回：明治期以降の活字印刷技術（甘露担当） 第13回：活字印刷技術と出版制度（甘露担当） 第14回：出版制度と樋口一葉（甘露担当） 第15回：出版制度と島村藤村（甘露担当） 定期試験			
テキスト （平安文学）プリントを配付			

(中世文学) プリントを配布 (近代文学) プリント配賦
参考書・参考資料等 (平安文学) 日本古典文学全集『枕草子』 (小学館) ・新編日本古典文学全集『枕草子』 (小学館) (中世文学) 新編日本古典文学全集『平家物語上・下』 『十訓抄』 (小学館) (近代文学) 特に無し
学生に対する評価 15回授業後に行う定期試験

授業科目名： 上代文学特論A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 菊川 恵三
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語、高等学校 書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
○万葉集を中心にした古代和歌文学の展開			
・万葉集の各作品について、用語・リズム・内容・背景について理解し、説明できる。			
・万葉集と王朝和歌について、その違いと連続性について理解し、説明できる。			
・万葉集の背景になった飛鳥・奈良時代の歴史と生活を踏まえて作品を理解し、説明できる。			
授業の概要			
上代文学は、日本人が中国の文字文化に刺激を受け、自らの周辺にあったウタやカタリを文字化し書物の形で残した最初期のものである。それだけに、後の平安朝の和歌や散文とは異なる点が少なくない。			
本講義では万葉集に焦点をあて、古今集を中心とした王朝和歌と比較することで、万葉集がもつ特徴・魅力をあきらかにしていく。具体的にはリズム・修辞・歌の役割、それぞれの違いと共通性を理解することで、古代和歌の本質と変化について学ぶ。			
授業計画			
第1回：万葉集の概説① 万葉集全体の構成・文字について、古今集との比較から学ぶ			
第2回：万葉集の概説② 万葉集歌人の幅の広さについて、古今集との比較から学ぶ			
第3回：万葉歌のリズム① 万葉長歌と平安朝のいろは歌と比べてリズムの違いを学ぶ			
第4回：万葉歌のリズム② 句切れについて、王朝和歌との違いを学ぶ			
第5回：万葉歌の構成① 五七調と七五調の違いについて、王朝和歌と比べて学ぶ			
第6回：万葉歌の構成② 物象と心象を結びつけた歌について、古今集との違いを学ぶ			
第7回：万葉歌の修辞① 序詞と掛詞が、万葉と古今にどのようにつながっているのかを学ぶ			
第8回：万葉歌の修辞② 枕詞が、万葉と古今にどのように変質していくのか学ぶ			
第9回：万葉歌の修辞③ 王朝和歌の特徴である縁語が、万葉歌とどうつながるのかを学ぶ			
第10回：万葉歌の用語と用字① ミ語法・漢語など万葉歌に多用される用語を学ぶ			
第11回：万葉歌の用語と用字② 漢字を用いることと仮名をもちいることの違いについて学ぶ			
第12回：万葉集と貴族社会① 大伴坂上郎女を中心に、万葉集の女性の生活と歌を学ぶ			
第13回：万葉集と貴族社会② 旅人・憶良を中心に、万葉官人たちの生活と和歌について学ぶ			
第14回：万葉集と貴族社会③ 家持を中心に、経歴と歌作について学ぶ			

第15回：万葉集から見た古代和歌の展開についてのまとめとレポートの準備
テキスト
『万葉集 本文篇補訂版』（塙書房）、『古今和歌集』（角川文庫）
参考書・参考資料等
新日本古典文学全集『万葉集1～4』、同『古今和歌集』（小学館）、『セミナー 万葉の歌人作品』1～12巻（和泉書院）など
学生に対する評価
最終レポート70% 日常の発表・小レポート30%

授業科目名： 上代文学特論B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 菊川 恵三
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語、高等学校 書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
○万葉集・柿本人麻呂作品をとおして知る古代和歌文学			
・万葉集最大の歌人、柿本人麻呂の作品について、その代表的な歌を理解し、文学史的意義を説明できる。			
・柿本人麻呂作品を通じて、天武・持統朝の政治と文化について説明できる。			
授業の概要			
本講義では春季のⅠAを受け、万葉集の最大の歌人、柿本人麻呂の作品に焦点をあて、その特徴と意義について論じていく。			
人麻呂は、単に歌数の多さだけではなく、短歌に加え多くの長歌を残し、また雑歌・相聞・挽歌という三大部立にわたって作品を残す。それらには、数多くの秀歌が含まれ、天武天皇の皇子、草壁・高市に関わる挽歌、若き日の文武天皇との狩猟の歌なども収められる。人麻呂歌を考えることは、同時に天武・持統朝の政治の問題と大きくかわり、そこから古代和歌文学が立ち上がっていく「時代」を学ぶことができる。			
授業計画			
第1回：万葉集の成立と時代 記紀と比較しつつ、この万葉集の時代と新しい歌の成立を学ぶ			
第2回：人麻呂以前① 初期万葉の代表として額田王作品を理解し、その意義について学ぶ			
第3回：人麻呂以前② 初期万葉の挽歌として「天智挽歌群」を理解し、その意義について学ぶ			
第4回：人麻呂長歌① 「近江荒都歌」を理解し、その意義について学ぶ			
第5回：人麻呂長歌② 「近江荒都歌」を歴史的側面に注目し、その意義を学ぶ			
第6回：人麻呂長歌③ 「吉野讃歌」について、その内容と歴史的意義を学ぶ			
第7回：人麻呂長歌④ 「石見相聞歌」について、その内容と相聞長歌としての意義を学ぶ			
第8回：人麻呂長歌⑤ 「日並皇子挽歌」について、その内容と挽歌の政治性について学ぶ			
第9回：人麻呂長歌⑥ 「泣血哀慟歌」について、その内容と亡妻挽歌としての特徴について学ぶ			
第10回：人麻呂短歌① 「羈旅八首」について、明石海峡を中心とした羈旅歌の意義を学ぶ			
第11回：人麻呂短歌② 巻二の相聞短歌について、その特徴と意義について学ぶ			
第12回：人麻呂短歌③ 人麻呂歌集の夢の歌について、その特徴と意義について学ぶ			
第13回：人麻呂短歌④ 人麻呂の夢歌と万葉集の他の歌を比較しながら、その違いについて学ぶ			

第14回：人麻呂短歌⑤ 人麻呂の夢歌と小野小町の夢歌を比較しながら、その違いについて学ぶ

第15回：まとめ 柿本人麻呂の和歌とその文学史的意義についてのまとめ、レポートの準備

テキスト

『万葉集 本文篇補訂版』（塙書房）もしくは（おうふう版）

参考書・参考資料等

新日本古典文学全集『万葉集 1～4』、同『古今和歌集』（小学館）、『セミナー 万葉の歌人作品』1～12巻（和泉書院）など

学生に対する評価

最終レポート70% 日常の発表・小レポート30%

授業科目名： 中古文学特論A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 勝亦志織
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語、高等学校 書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 和歌と物語の10世紀 900年代における日本文学の有り様を深く理解し、その成立と享受の実態を把握する。			
授業の概要 平仮名の普及した900年代において作られた和歌と物語について取り上げ、それらの成立の背景をふまえながら作品を読解する。その上で、相互の作品の影響関係や後続の作品への享受の実態を考察する。			
授業計画 第1回：10世紀日本文学の概要 第2回：『古今和歌集』について（1）平仮名という表記方法 第3回：『古今和歌集』について（2）撰者の和歌を読解する 第4回：『伊勢物語』について（1）『古今和歌集』との関係 第5回：『伊勢物語』について（2）歌物語の成立 第6回：『後撰和歌集』について（1）村上天皇時代の文学・文化 第7回：『後撰和歌集』について（2）物語的詞書の意味 第8回：『大和物語』について（1）『後撰和歌集』との関係 第9回：『大和物語』について（2）「歌語り」とは何か 第10回：『蜻蛉日記』と和歌 第11回：『うつほ物語』と「歌語り」 第12回：「継子物語」の時代 第13回：『落窪物語』の主人公像 第14回：10世紀日本文学の後世への影響 第15回：10世紀日本文学のまとめ 定期試験			
テキスト プリントを配付する。			

参考書・参考資料等

新編日本古典文学全集『竹取物語・伊勢物語・大和物語・平中物語』（小学館）

和歌文学大系『古今和歌集』『後撰和歌集』（明治書院）

学生に対する評価

定期試験（70％）・毎回の授業にて提出する小レポート（30％）

授業科目名： 中古文学特論B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 勝亦志織
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語、高等学校 書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
11世紀日本文学における散文作品読解			
1000年代に成立した散文作品の読解を通して、平安時代における文学と文化を理解し、その世界文学史的意義を把握する。			
授業の概要			
1000年代に成立した散文作品は多数現存するが、その多くが女性の手によるものである。世界文学史の中でも稀な状況がなぜ起こったのか、それぞれの作品がどのように享受されたのか、当時の歴史状況をふまえつつ作品の読解を通して考察する。			
授業計画			
第1回：11世紀日本文学の概要			
第2回：『枕草子』について（1）諸本について			
第3回：『枕草子』について（2）初段の意義			
第4回：『枕草子』について（3）日記的章段と歴史			
第5回：『枕草子』について（4）ものづくし章段と和歌			
第6回：『枕草子』について（5）「随筆」というジャンルの問題			
第7回：『源氏物語』について（1）作品の概要と成立の背景			
第8回：『源氏物語』について（2）第一部について			
第9回：『源氏物語』について（3）第二部について			
第10回：『源氏物語』について（4）第三部について			
第11回：『源氏物語』について（5）後世へ影響			
第12回：『夜の寝覚』について			
第13回：『浜松中納言物語』について			
第14回：『狭衣物語』について			
第15回：11世紀日本文学のまとめ			
定期試験			
テキスト			
プリントを配付する。			

参考書・参考資料等

新編日本古典文学全集『枕草子』・『源氏物語』①～⑥・『夜の寝覚』・『浜松中納言物語』
・『狭衣物語』①～②（小学館）

学生に対する評価

定期試験（70％）・毎回の授業にて提出する小レポート（30％）

授業科目名： 中世文学特論A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 徳竹 由明
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語、高等学校 書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
説話の同文的同話・類話・関連話の収集・整理・分析方法を身につけ、説話文学研究の基礎を学ぶ。			
授業の概要			
授業形態を講義（演習を含む）とする。中世文学のうち説話文学を中心に扱うこととし、大学院生が説話文学研究を進める上で必要となる基礎知識を、特に「説話形成」論をキーワードとして身につけることを目標とする。具体的には、『十訓抄』をテキストとし、①中世の説話集の種類と伝本、②説話の同文的同話・類話・関連話の検索方法（各種索引・データベース等）、③説話の同文的同話・類話・関連話の整理・分析方法、④整理・分析した情報の考察方法を教授する（履修者による実践も含む）。			
授業計画			
第1回：ガイダンス・説話集の歴史・『十訓抄』解題			
第2回：『十訓抄』第一編第二十九話「平貞文と本院侍従」の読解			
第3回：他文献の「平貞文と本院侍従」の読解。『十訓抄』との比較			
第4回：『十訓抄』第三編「漢高祖の頓死」の読解			
第5回：他文献の「漢高祖の頓死」の読解。『十訓抄』との比較			
第6回：『十訓抄』第五編第二話「村上天皇と源延光」・第五話「智光と頼光」の読解			
第7回：他文献の「村上天皇と源延光」「智光と頼光」の読解。『十訓抄』との比較			
第8回：中世文学の中の「夢」についての解説（「村上天皇と源延光」「智光と頼光」に関連して）			
第9回：『十訓抄』第六編「前九年の合戦」の読解			
第10回：他文献の「前九年の合戦」の読解。『十訓抄』との比較			
第11回：『十訓抄』第六編第二十一話「貞女峡」・第二十二話「望夫石」の読解			
第12回：他文献の「貞女峡」「望夫石」の読解。『十訓抄』との比較			
第13回：受講生による発表（『十訓抄』第一編から第三編の中の説話を題材として）			
第14回：受講生による発表（『十訓抄』第四編から第六編の中の説話を題材として）			
第15回：受講生による発表（『十訓抄』第七編から第十編の中の説話を題材として）			
定期試験：レポートを課す。			

テキスト 新編日本古典文学全集『十訓抄』（小学館）
参考書・参考資料等 講義内で提示する。
学生に対する評価 講義内での発表（30％）、レポート（70％）

授業科目名： 中世文学特論B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 徳竹 由明
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語、高等学校 書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
軍記物語諸本間の同一章段内の差異を整理・分類し、分析する方法を身につける。軍記物語研究の基礎を学ぶ。			
授業形態を講義（演習を含む）とする。中世文学のうち軍記物語を中心に扱うこととし、大学院生が軍記物語研究を進める上で必要となる基礎知識を、特に「説話形成」論をキーワードとして身につけることを目標とする。具体的には、多くの、且つ多彩な伝本を有する『平家物語』『太平記』をテキストとし、①中世の軍記物語の種類と伝本、②諸本間の同一章段（他作品中の同話・類話・関連話も含む）の検索方法（各種索引・データベース等）、③検索・収集した同一章段の整理・分析方法、④整理・分析した情報の考察方法を教授する（履修者による実践も含む）。			
授業計画			
第1回：ガイダンス・軍記物語の歴史・『平家物語』『太平記』解題			
第2回：語り本系・読み本系『平家物語』序「祇園精舎」の読解。両系統の比較			
第3回：語り本系『平家物語』「物怪之沙汰」「青侍の夢」の読解			
第4回：読み本系『平家物語』「物怪之沙汰」「青侍の夢」の読解。語り本系との比較			
第5回：軍記物語、及びその周辺文芸の中の夢についての解説（「青侍の夢」に関連して）			
第6回：語り本系・読み本系『平家物語』「石山寺薫聖教」縁起説の読解。両系統の比較			
第7回：他文献の「石山寺薫聖教」縁起説の読解。『平家物語』との比較			
第8回：語り本系『平家物語』「神功皇后「三韓出兵」」譚の読解			
第9回：読み本系『平家物語』「神功皇后「三韓出兵」」譚の読解。語り本系との比較。			
第10回：他文献の「神功皇后「三韓出兵」」の読解。			
第11回：『太平記』巻第四十「蒙古日本を攻むる事 付神戦の事」の読解			
第12回：他文献の「蒙古襲来」読解。『太平記』との比較			
第13回：受講生による発表（覚一本『平家物語』巻第一から巻第四までの章段を起点として）			
第14回：受講生による発表（覚一本『平家物語』巻第五から巻第八までの章段を起点として）			
第15回：受講生による発表（覚一本『平家物語』巻第九から巻第十二までの章段を起点として）			
定期試験：レポートを課す。			

テキスト

新編日本古典文学全集『平家物語』上下（小学館）

新編日本古典文学全集『太平記』四（小学館）

参考書・参考資料等

『平家物語大事典』（大津雄一他編 東京書籍）その他は講義内で提示する。

学生に対する評価

講義内での発表（30％）、レポート（70％）

授業科目名： 近世文学特論 A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 柳沢昌紀
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語、高等学校 書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
近世初期から中期における近世軍書の出版と、その教授の変容について検討する方法を身につけている。			
授業の概要			
授業形態を講義（演習を含む）とする。大坂冬の陣・夏の陣の直後に古活字版で刊行され、上下二巻の形で何度も出版された『大坂物語』を取り上げて、講読する。本書は古活字版が六版以上あり、整版が十数版以上知られている。また整版には上方版と江戸版がある。それらの諸版を可能な限り比較することで、本書の本文がどのように変化したのか、挿絵や後付がいつ頃付加されたのかについて教授する。			
授業計画			
第1回：『大坂物語』とは何か			
第2回：『大坂物語』古活字版の諸版			
第3回：『大坂物語』整版の諸版			
第4回：古活字第一種と第二種の比較			
第5回：古活字第二種と第三種の比較			
第6回：古活字第三種と第三種別版の比較			
第7回：第三種別版・下巻初版と第四種の比較			
第8回：第三種別版・下巻初版と第五種の比較			
第9回：第四種と第五種の比較			
第10回：関ヶ原合戦記事の増補の実態			
第11回：古活字第五種と寛永年間整版の比較			
第12回：上方版と江戸版			
第13回：頸帳の付加			
第14回：江戸版諸版の挿絵			
第15回：『大坂物語』諸版についてのまとめ			
定期試験は実施しない。			

テキスト
『大坂物語』 諸版のテキストが掲載された書籍やデジタル画像を用いる。
参考書・参考資料等
『新日本古典文学大系・仮名草子集』（岩波書店） 柳沢昌紀「『大坂物語』論—歴史はどのように記述されるのか」『形成される教養—十七世紀日本の〈知〉』（勉誠出版）
学生に対する評価
翻字ならびに本文校合の報告（70％）、毎回の授業における発言内容（30％）

授業科目名： 近世文学特論 B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 柳沢昌紀
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語、高等学校 書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
近世後期における紀行文の成立の有り様と、その出版の経緯について検討する方法を身につけている。			
授業の概要			
授業形態を講義（演習を含む）とする。橘南谿の著『西遊記』を取り上げて、講読する。本書には正統10巻10冊の刊本があるが、それに先立つ南谿自筆の草稿本が知られている。さらにそれより前の草稿本の写しと思われる本も存在する。それらの本文を比較することで、本書がどのように成立したのか、また南谿の異境や辺境に対する興味や評価がいかにどのように変化したのかについて教授する。			
授業計画			
第1回：橘南谿について			
第2回：『西遊記』の諸本と出版			
第3回：『西遊記』諸本の話の配列			
第4回：巻6―1「三原の会」前半を読む			
第5回：巻6―1「三原の会」後半を読む			
第6回：「三原の会」本文を龍谷大本、版本と校合			
第7回：巻6―2「池山喜三左衛門」序盤を読む			
第8回：巻6―2「池山喜三左衛門」序盤の続きを読む			
第9回：巻6―2「池山喜三左衛門」中盤を読む			
第10回：巻6―2「池山喜三左衛門」中盤の続きを読む			
第11回：巻6―2「池山喜三左衛門」終盤を読む			
第12回：巻6―2「池山喜三左衛門」終盤の続きを読む			
第13回：「池山喜三左衛門」本文を龍谷大本と校合			
第14回：「池山喜三左衛門」本文を版本と校合			
第15回：中京大本巻6前半の性格を検討し、龍谷大本、版本への変容についてまとめる			
定期試験は実施しない。			

テキスト

『西遊記』中京大学図書館蔵本の複写物を用いる。

参考書・参考資料等

『新日本古典文学大系・西遊記』（岩波書店）

『東洋文庫・東西遊記 1・2』（平凡社）

学生に対する評価

翻字ならびに本文校合の報告（70％）、毎回の授業における発言内容（30％）

授業科目名： 近代文学特論A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 酒井敏
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語、高等学校 書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
鷗外森林太郎をテーマとした作家・作品研究。 作者についての情報や同時代の文学・文化の状況についての情報を収集・総合して、創作時点の作者が作品に込めたモチーフや創作意図、テキストの時代的位相などを考察・分析できるようになり、合わせて近代文学史の理解が深まる。			
授業の概要			
授業形態は講義（一部演習を含む）。ドイツ三部作、文壇再活躍時代の短編小説、『青年』『雁』『灰燼』の三長編など、森鷗外の現代（同時代）小説から対象作品を選んで注釈や作品分析、時代状況を意識したテキスト分析などを講義し、研究方法の指導を行うとともに、必要に応じて履修生に作品読解やテキスト分析の実践を求める。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：「舞姫」について			
第3回：「うたかたの記」について			
第4回：「文づかひ」について			
第5回：「半日」について			
第6回：「キタ・セクスアリス」について			
第7回：「普請中」について			
第8回：「妄想」について			
第9回：「かのやうに」について			
第10回：『青年』について・1（注釈を中心に）			
第11回：『青年』について・2（読解を中心に）			
第12回：『雁』について・1（注釈を中心に）			
第13回：『雁』について・2（読解を中心に）			
第14回：「灰燼」について・1（注釈を中心に）			
第15回：「灰燼」について・2（読解を中心に）			
定期試験は実施しない。			

テキスト

上記の作品を収録した各社の文庫本（出版社は指定しない）。必要に応じて初出形態のプリントを配布する。

参考書・参考資料等

山崎一穎『二生を行く人 森鷗外』（新典社）

竹盛天雄編『森鷗外必携』（別冊國文學 學燈社）

他は随時指定する。自作のプリントを配布する場合もある。

学生に対する評価

レポート試験（80％）、授業中の発言や実践内容（20％）

授業科目名： 近代文学特論B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 酒井敏
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語、高等学校 書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
鷗外森林太郎をテーマとした作家・作品研究。 作者についての情報や同時代の文学・文化の状況についての情報を収集・総合して、創作時点の作者が作品に込めたモチーフや創作意図、テキストの時代的位相などを考察・分析できるようになり、合わせて近代文学史の理解が深まる。			
授業の概要			
授業形態は講義（一部演習を含む）。森鷗外の歴史文学（歴史小説と史伝）から対象作品を選んで注釈や作品分析、時代状況を意識したテキスト分析などを講義し、研究方法の指導を行うとともに、必要に応じて履修生に作品読解やテキスト分析の実践を求める。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：鷗外歴史文学の方法―「歴史其儘と歴史離れ」について―			
第3回：「興津弥五右衛門の遺書」について			
第4回：「阿部一族」について			
第5回：「護持院原の敵討」について			
第6回：「堺事件」について			
第7回：「安井夫人」について			
第8回：「山椒大夫」について			
第9回：「高瀬舟」について			
第10回：「最後の一句」について			
第11回：「渋江抽斎」について―新聞連載を追う―			
第12回：「渋江抽斎」について―小説としての面白さ―			
第13回：「渋江抽斎」について―歴史叙述小説としての達成―			
第14回：「伊澤蘭軒」について			
第15回：「北條霞亭」について			
定期試験は実施しない。			

テキスト

森鷗外全集（ちくま文庫）の該当巻など、上記の作品を収録した文庫本。または『鷗外歴史文学集』（岩波書店）。必要に応じて初出形態のプリントを配布する。

参考書・参考資料等

山崎一穎『二生を行く人 森鷗外』（新典社）

竹盛天雄編『森鷗外必携』（別冊國文學 學燈社）

『鷗外歴史文学集』（岩波書店）所収の注釈と人名注。

他は随時指定する。自作のプリントを配布する場合もある。

学生に対する評価

レポート試験（80％）、授業中の発言や実践内容（20％）

授業科目名： 漢文学特論 A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 福井 佳夫
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語、高等学校 書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 志怪伝奇の内容や文体を学ぶことによって、中国の小説がいかに関に日本の説話文学に影響を与えたかが理解できる。 ・ 漢文の読解力を向上させることができる。			
授業の概要			
中国の六朝の小説をとりあげる。六朝の小説は志怪伝奇とも称されるが、内容は奇談や異聞がおおく、文章も平易で読みやすい。そのためか上代の日本人もこの小説に関心をもち、とくに遣唐使にしたがって渡航した留学生が、帰国時にこれをもちかえって日本にひろめた。平安時代の『今昔物語集』や『日本霊異記』には、この志怪伝奇中の物語と類似した説話が存しているので、古い時代における日中の文化交流を考えるうえでも好材料になる。			
授業計画			
第1回：講義概略 履修上の諸注意			
第2回：中国の小説 小説の歴史を概観			
第3回：神話 神話と小説の関係			
第4回：伝説 伝説と小説の関係			
第5回：寓話 寓話と小説の関係			
第6回：儒教と小説 儒教思想からみた小説			
第7回：仏教と小説 仏教思想からみた小説			
第8回：道教と小説 道教思想からみた小説			
第9回：志怪伝奇の発生いかにして発生してきたか			
第10回：志怪伝奇の展開 いかに展開してきたか			
第11回：志怪伝奇の成長 いかに成長してきたか			
第12回：志怪伝奇の日本への影響1 怪異譚への影響			
第13回：志怪伝奇の日本への影響2 再生譚への影響			
第14回：志怪の伝奇日本への影響3 冥界譚への影響			
第15回：まとめ いままでの補い			
定期試験			

テキスト なし
参考書・参考資料等 「中国小説史入門」 岩波書店
学生に対する評価 定期試験（１００％）

授業科目名： 漢文学特論 B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 福井 佳夫
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語、高等学校 書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 中国の志怪伝奇を学ぶことによって、中国の小説がいかに発展し、いかに日本へ影響を与えたかが理解できる。 ・ 志怪伝奇の内容や文体を学ぶことによって、中国の小説がいかに日本文学に影響を与えたかが理解できる。 ・ 漢文の読解力を向上させることができる。			
授業の概要			
漢文学特論 A に続き、この授業でも志怪伝奇を取りあげる。ただこの授業では概論的な内容ではなく、より具体的な作品である『搜神記』と『冥報記』を取りあげ、その成立や内容について説明する。そして日本の『今昔物語集』や『日本霊異記』との相関に注目し、古い時代における日中の文化交流を考えてゆく。			
授業計画			
第 1 回：講義概略 履修上の諸注意			
第 2 回：『搜神記』の解説 1 内容の概観			
第 2 回：『搜神記』の解説 2 作者と制作年代			
第 3 回：『搜神記』の解説 3 六朝と唐代の伝来			
第 4 回：『搜神記』の解説 4 文学史的 position づけ			
第 5 回：『搜神記』の解説 5 日中文化交流史上の意義			
第 6 回：『冥報記』の解説 1 内容の概観			
第 7 回：『冥報記』の解説 2 作者と制作年代			
第 8 回：『冥報記』の解説 3 唐代以後の伝来			
第 9 回：『冥報記』の解説 4 文学史的 position づけ			
第 10 回：『冥報記』の解説 5 日中文化交流史上の意義			
第 11 回：日中比較 1 『搜神記』と『日本霊異記』との関連			
第 12 回：日中比較 2 『冥報記』と『日本霊異記』との関連			
第 13 回：日中比較 3 『搜神記』と『今昔物語集』との関連			
第 14 回：日中比較 4 『冥報記』と『今昔物語集』との関連			

第15回：まとめ いままでの補い 定期試験
テキスト なし
参考書・参考資料等 「中国小説史入門」 岩波書店
学生に対する評価 定期試験（100%）

授業科目名： 古代日本語史特論 A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 後藤 英次
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語、高等学校 書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
古代（特に奈良時代まで）の日本語の歴史は、中国語のための文字である漢字との格闘の歴史であったとも言える。古代における漢字・漢文の受容とはどのようなものであったのか、また、この時代の日本語における漢字・漢文（漢字文）をめぐってどのような研究が行われてきたのかをテーマとして、講義（解説）を行う。 古代における漢字・漢文の受容の概要を把握すること、古代の日本語における漢字文をめぐってどのような研究課題があるのかを理解することを本科目の到達目標とする。			
授業の概要			
授業形態は講義（一部演習を含む）とする。中国語としての漢字・漢文について概観した後、古代の日本語における漢字文資料について論じていく。古代日本語における漢字文資料としては、散文資料として主に『古事記』と『続日本紀』宣命、韻文資料として主に『万葉集』を取り上げ、これらの資料における漢字の使用法の特徴について論ずる。履修者には、理解をより深めるため、各資料の用字調査も行ってもらおう。			
授業計画			
第1回：中国語のための文字としての漢字 漢字の形音義			
第2回：中国語文としての漢文 漢文の構造			
第3回：古代日本における漢字・漢文 最初期の姿			
第4回：純漢文資料について1 『日本書紀』の和習			
第5回：純漢文資料について2 『日本書紀』の区分論			
第6回：純漢文資料について3 『日本書紀』の用字・用語とその典拠			
第7回：変体漢文資料について1 『古事記』の用字法			
第8回：変体漢文資料について2 『古事記』の語彙・文体			
第9回：変体漢文資料について3 『古事記』の用字・用語とその典拠			
第10回：宣命体資料について1 『続日本紀』宣命の用字法			
第11回：宣命体資料について2 『続日本紀』宣命の語彙・文体			
第12回：韻文資料について1 『記紀』歌謡について			
第13回：韻文資料について2 『万葉集』の用字法			

第14回：韻文資料について3 『万葉集』の用字・用語とその典拠

第15回：まとめ 古代日本語における漢字文研究の今後の可能性

定期試験は実施しない。

テキスト

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

『日本思想大系1 古事記』（小林芳規他編、岩波書店）

『変体漢文（新装版）』（峰岸明著、吉川弘文館）

学生に対する評価

平常点（50%）、課題・レポート（50%）

授業科目名： 古代日本語史特論B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 後藤 英次
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語、高等学校 書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
平安時代以降になると、漢字と漢文（漢字文）の和化（日本化）が急激に進展する。平安・鎌倉時代の日本語における漢字・漢文のあり方とはどのようなものであったのか、また、この時代の日本語における漢字・漢文（漢字文）をめぐってどのような研究が行われてきたのかをテーマに講義（解説）を行う。 平安・鎌倉時代の日本語における漢字・漢文のあり方の概要を把握すること、この時代の漢字・漢文をめぐってどのような研究課題があるのかを理解することを本科目の到達目標とする。			
授業の概要			
授業形態は講義（一部演習を含む）とする。平安・鎌倉時代の日本漢字文の資料にはどのようなものがあるのかを概観した後、変体漢文資料を中心に論じていく。具体的には、藤原道長『御堂関白記』等の公家日記や古往来、鎌倉時代の歴史書である『吾妻鏡』を取り上げ、これらの資料における漢字・漢語の使用法の特徴について論ずる。履修者には、理解をより深めるため、各資料の用字・用語調査も行ってもらう。			
授業計画			
第1回：平安・鎌倉時代の漢字文資料概観			
第2回：純漢文資料について1 漢詩文資料における和習			
第3回：純漢文資料について2 史書における和習			
第4回：変体漢文資料について1 公家日記の初発 一史書と公家日記一			
第5回：変体漢文資料について2 初期の公家日記『貞信公記』『九暦』			
第6回：変体漢文資料について3 公家日記の特徴1『御堂関白記』			
第7回：変体漢文資料について4 公家日記の特徴2『小右記』			
第8回：変体漢文資料について5 公家日記の特徴3『権記』			
第9回：変体漢文資料について6 公家日記の展開『後二条師通記』『殿暦』等			
第10回：変体漢文資料について7 鎌倉時代の公家日記1『猪隈関白記』『岡屋関白記』等			
第11回：変体漢文資料について8 鎌倉時代の公家日記2『民経記』等			
第12回：変体漢文資料について9 鎌倉時代の公家日記3『深心院関白記』『実躬卿記』等			
第13回：変体漢文資料について10 古往来と公家日記			

第14回：変体漢文資料について11 変体漢文の典型としての『吾妻鏡』

第15回：まとめ 平安・鎌倉時代の漢字文資料研究の今後の可能性

定期試験は実施しない。

テキスト

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

『平安時代古記録の国語学的研究』（峰岸明著、東京大学出版会）

『日本史小百科 古記録』（飯倉晴武著、東京堂出版）

学生に対する評価

平常点（50%）、課題・レポート（50%）

授業科目名： 近代日本語史特論A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宮内佐夜香
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語、高等学校 書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
近代語研究のうち、現代語形成に関わる研究に関わる内容を扱うこととし、そのための資料（コーパスを含む）についての知識、コーパスの扱い方、研究観点についての知識を身につけ、コーパスから得られる情報を適切に解釈できるようになることを目標とする。			
授業の概要			
①近年整備されつつある日本語コーパスの現状、②現代語（戦後）の均衡コーパスの意義と特質、③コーパスを使った調査方法、以上を講義によって教授、さらに④研究事例を知るための論文講読を実施し、演習として、⑤研究事例についてコーパスを利用した検証を実施する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の意義			
第3回：『現代日本語書き言葉均衡コーパス』のデータ詳細			
第4回：『昭和・平成書き言葉コーパス』の意義			
第5回：『昭和・平成書き言葉コーパス』のデータ詳細			
第6回：音声言語コーパス各種の詳細			
第7回：現代語の文体研究論文講読			
第8回：コーパスを用いた文体研究演習			
第9回：現代語の語彙研究論文講読			
第10回：コーパスを用いた語彙研究演習			
第11回：現代語の文法研究論文講読			
第12回：コーパスを用いた文法研究演習			
第13回：現代語の表記研究論文講読			
第14回：コーパスを用いた表記研究演習			
第15回：各自選択テーマについてのコーパス調査			
定期試験は実施しない			
テキスト			
特に指定しない			

参考書・参考資料等

『講座日本語コーパス』（朝倉書店）

その他適宜配付、紹介する

学生に対する評価

演習への取り組み（40%）、最終レポート（60%）

授業科目名： 近代日本語史特論B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宮内佐夜香
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語、高等学校 書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 近代語研究のうち、室町時代以降の研究に関わる内容を扱うこととし、そのための資料（コーパスを含む）についての知識、コーパスの扱い方、研究観点についての知識を身につけ、コーパスから得られる情報を適切に解釈できるようになることを目標とする。			
授業の概要 ①室町時代から戦前期までの史的研究のための資料の特質、②左記の資料のコーパス化（『日本語歴史コーパス』）の意義と現状、③『日本語歴史コーパス』を使った調査方法、以上を講義によって教授、さらに④研究事例を知るための論文講読を実施し、演習として、⑤各自が選択したテーマについて『日本語歴史コーパス』を利用した調査報告を実施する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：日本語史研究のための資料論 1 歴史言語学の問いと方法 第3回：日本語史研究のための資料論 2 話し言葉と書き言葉 第4回：『日本語歴史コーパス』の資料性 第5回：コーパスを使った語彙史研究論文講読 第6回：コーパスを使った文法史研究論文講読 第7回：コーパスを使った文体史研究論文講読 第8回：コーパスを使った表記史研究論文講読 第9回：コーパスを使った音韻史研究論文講読 第10回：コーパスを使った方言史研究論文講読 第11回：各自の選択テーマについての調査報告（語彙史） 第12回：各自の選択テーマについての調査報告（文法史・文体史） 第13回：各自の選択テーマについての調査報告（表記史・音韻史） 第14回：各自の選択テーマについての調査報告（方言史） 第15回：各自選択テーマについてのまとめ 定期試験は実施しない			

テキスト

『コーパスで学ぶ日本語学 日本語の歴史』（朝倉書店）

参考書・参考資料等

『シリーズ日本語史』（岩波書店）

他、適宜配付、紹介する。

学生に対する評価

演習への取り組み（40%）、最終レポート（60%）

授業科目名： 文章・談話特論A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宮澤太聡
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語、高等学校 書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
- 文章・談話論研究の基礎知識を説明できる - 接続論の知識を用いて文章の分析ができる - 連鎖論の知識を用いて文章の分析ができる - 統括論の知識を用いて文章の分析ができる			
授業の概要			
「文章」と「談話」は、日本語の文字・音声によるコミュニケーションの唯一の実現形態であるが、文を構成するための文法的知識だけでは、その構造や機能を十分に明らかにすることはできない。ここでは文・発話と文章・談話の中間的な単位として「段（文段・話段）」という単位を措定して、「接続」「連鎖」「統括」といった観点から分析を行う方法を検討する。			
授業計画			
第1回：「文章・談話論」について文章・談話論という用語の概念の多様性			
第2回：さまざまな「文章論」① 時枝誠記の文章論について			
第3回：さまざまな「文章論」② 市川孝・永野賢の文章論について			
第4回：さまざまな「文章論」③ 佐久間まゆみの文章・談話論について			
第5回：「接続論」とその周辺② 文の接続からみた文章構造			
第6回：「接続論」とその周辺② 「段」の接続からみた文章構造			
第7回：「連鎖論」とその周辺① 「提題表現（主語）」の連鎖からみた文章構造			
第8回：「連鎖論」とその周辺② 「叙述表現（陳述）」の連鎖からみた文章構造			
第9回：「連鎖論」とその周辺③ 「主要語句」の連鎖からみた文章構造			
第10回：「統括論」とその周辺① 「接続論」と「統括」の関係			
第11回：「統括論」とその周辺② 「連鎖論」と「統括」の関係			
第12回：「統括論」とその周辺③ 「中心文」と「主題文」による統括の多重構造			
第13回：文章分析の実践① 要約文の作成			
第14回：文章分析の実践② 要約文の分析			
第15回：文章分析の実践③ 総括要約文からみた原文の文章構造の特徴			

テキスト なし
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。
学生に対する評価 平常点（40%） 課題・レポート（60%）

授業科目名： 文章・談話特論B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宮澤太聡
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語、高等学校 書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 実際の談話で起こっている現象を談話研究の知識を用いて説明できる ・ 文章・談話論の知識を用いて目的を持った談話の構造を分析できる ・ 文章・談話論の知識を用いて目的のない日常会話におこる言語現象を分析できる			
授業の概要			
たとえば、小説の会話文をそのまま音声に変換しても、どこか不自然なものとなる。音声言語によるコミュニケーションでは、言語・非言語行動を含め、文字言語には見られない様々な現象が起こっている。ここでは、「文章論」で獲得した知識だけでは分析が困難な談話特有の表現を中心に、独話、対話、会話の展開的構造を検討する。			
授業計画			
第1回：文章・談話論について「文章・談話論」という概念の多様性			
第2回：言語行動としての談話研究① 表現と意図			
第3回：言語行動としての談話研究② 発話と相づち（非言語表現を含む）			
第4回：言語行動としての談話研究③ 話者交替と発話連鎖			
第5回：言語行動としての談話研究④ 言い間違い・言い直し・誤解の修復行動			
第6回：談話と展開的構造① 「段（文段・話段）」と分析単位について			
第7回：談話と展開的構造② 談話統括機能と展開的構造について			
第8回：独話の構造分析① 「講義」の分析方法			
第9回：独話の構造分析② 「話段」の認定方法（話し手の話段・聞き手の話段）			
第10回：独話の構造分析③ 談話構造が持つ話段（談話の話段）			
第11回：独話の構造分析④ 要点を説明する			
第12回：対話の構造分析① 目的を持った談話（勧誘）の構造分析（話段）			
第13回：対話の構造分析② 目的を持った談話（勧誘）の構造分析（発話機能と表現形式）			
第14回：対話の構造分析③ 目的を持たない談話（雑談）の構造分析（話段）			
第15回：対話の構造分析④ 総括目的を持たない談話（雑談）の構造分析（発話機能と表現形式）			

テキスト なし
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。
学生に対する評価 平常点（40%） 課題・レポート（60%）

授業科目名： 方言特論A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平塚雄亮
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・これまでどのような言語・方言の文法書が作られてきたのかを理解し，説明することができる。 ・文法概説の一部を作成するために調査の立案，実行，記述までを行うことができる。			
授業の概要			
言語・方言の記録・保存に必要な文法書，テキスト，辞書のいわゆる3点セットと呼ばれるものがある。このうち，この授業では文法書について，教員も含めて先行研究の精査を行い，各自の選んだ方言の文法概説の一部の作成を行う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 授業の概要や履修時の注意点			
第2回：文法書のリサーチ (1) 文法書の対象言語の整理			
第3回：文法書のリサーチ (2) 文法書の記述項目の整理			
第4回：調査の立案 (1) 各自の対象方言の選定			
第5回：調査の立案 (2) 対象方言の記述項目の選定			
第6回：調査の練習 (1) 記述項目の調査票の立案			
第7回：調査の練習 (2) 記述項目の調査票の作成			
第8回：調査の実行 (1) 調査票調査（音声・音韻項目）			
第9回：調査の実行 (2) 調査票調査（文法項目）			
第10回：調査結果のまとめ 調査結果の整理			
第11回：調査結果の発表 (1) プレゼンテーションの準備			
第12回：調査結果の発表 (2) プレゼンテーションのリハーサル			
第13回：調査結果の発表 (3) オンラインプレゼンテーション			
第14回：調査結果の発表 (4) 学生による発表			
第15回：調査結果の発表 (5) 学生による発表の振り返り			
テキスト			
なし			

参考書・参考資料等

方言文法研究会 全国方言文法データベース (<http://hougen.sakura.ne.jp/>)

学生に対する評価

平常点30%，期末レポート70%

授業科目名： 方言特論B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平塚雄亮
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 ・これまでどのような言語・方言のテキストが作られてきたのかを理解し、説明することができる。 ・テキストを作成するために調査の立案、実行までを行うことができる。			
授業の概要 言語・方言の記録・保存に必要な文法書，テキスト，辞書のいわゆる3点セットと呼ばれるものがある。このうち，この授業では談話の文字化資料であるテキストについて，教員も含めて先行研究の精査を行い，各自の選んだ方言のテキストの作成を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 授業の概要や履修時の注意点 第2回：テキストのリサーチ (1) テキストの対象言語の整理 第3回：テキストのリサーチ (2) テキストの記述項目の整理 第4回：調査の立案 各自の対象方言の選定 第5回：調査の練習 機器の操作方法 第6回：調査の実行 談話の収録 第7回：テキストの作成 (1) ELANの基本操作 第8回：テキストの作成 (2) 映像と音声収録の基礎知識 第9回：テキストの作成 (3) コーディング 第10回：テキストの作成 (4) 行動を測定する 第11回：テキストの作成 (5) 等間隔にデータを区切る 第12回：テキストの作成 (6) 音声分析との連携 第13回：テキストの作成 (7) 言語分析 第14回：テキストの作成 (8) テキストの完成 第15回：テキストの作成 (9) アウトプットの方法			
テキスト なし			
参考書・参考資料等			

細馬宏通・菊地浩平（2019）『ELAN入門 言語学・行動学からメディア研究まで』ひつじ書房

.

学生に対する評価

平常点30%，期末レポート70%

授業科目名： 国語科教育特論 A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 小塩 卓哉
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
国語科教育の方法と評価の在り方について学ぶ。到達目標は以下のとおり。 ・ 中学校及び高等学校の学習指導要領の変遷を理解している。 ・ 今次学習指導要領における国語科の科目構成と内容を理解している。 ・ 国語科における評価方法の在り方について理解をしている。 ・ 探求的な学びを実現するための教育方法を理解し、グループ学習に関して十分な指導力がある。			
授業の概要			
中等国語科教育の歴史を理解した上で、現代的な課題に即応した指導方法について理解を深める。その際、協働学習、アクティブ・ラーニング、メディア・リテラシー、I C T 教育等、様々な教育方法の利点について学び、実践力を身に付ける。			
授業計画			
第 1 回：国語科教育の構成と指導方法（1）国語科教育の枠組みについて			
第 2 回：国語科教育の構成と指導方法（2）学習指導要領における国語科の構成と効果的な指導方法について			
第 3 回：中等国語科教育の歴史について（1）中学校の教育課程の変遷について			
第 4 回：中等国語科教育の歴史について（2）中学校の教科書及び教材の変遷について			
第 5 回：中等国語科教育の歴史について（1）高等学校の教育課程の変遷について			
第 6 回：中等国語科教育の歴史について（2）高等学校の教科書及び教材の変遷について			
第 7 回：国語科教育の現代的な課題（1）探求的な学びの在り方について			
第 8 回：国語科教育の現代的な課題（2）協働学習の在り方について			
第 9 回：国語科教育の現代的な課題（3）アクティブ・ラーニングの歴史と定義について			
第 1 0 回：国語科教育の現代的な課題（4）アクティブ・ラーニングを取り入れた単元構成について			
第 1 1 回：国語科教育の現代的な課題（5）アクティブ・ラーニングを取り入れた模擬授業について			
第 1 2 回：国語科教育の現代的な課題（6）メディア・リテラシーとICT活用について			
第 1 3 回：国語科教育の現代的な課題（7）評価の在り方について			
第 1 4 回：国語科及における授業改善（1）中学校において思考力、判断力、表現力等をどう育てる			

かについて 第15回：国語科における授業改善（2）高等学校において思考力、判断力、表現力等をどう育てるかについて 定期試験は実施しない。
テキスト 『中学校・高等学校 国語科教育研究』（全国大学国語教育学会編、東洋館出版社）
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する
学生に対する評価 平常点（40％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40％）、模擬授業形式の演習（20％）

授業科目名： 国語科教育特論B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小塩 卓哉
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
国語科教育における授業構想と教材開発の在り方について学ぶ。到達目標は以下のとおり。 ・ 授業構想の意義と在り方について理解をしている。 ・ 学習者の意欲を喚起するような単元案を作成することができる。 ・ 主体的・対話的で深い学びを実現するための教材開発ができる。 ・ グループ学習を取り入れた単元案・学習指導案を作成できる。			
授業の概要			
授業構想及び教材開発についての先行例を学んだ上で、思考力・判断力、表現力の育成に役立つような授業構想とは何かを考えさせる。その上で、協働的な学びに資する創意に富んだ教材を具体的に作成させる。			
授業計画			
第1回：国語科教育における授業構想（1）効果的な授業構想について			
第2回：国語科教育における授業構想（2）言語表現への関心を高める方策について			
第3回：国語科教育における授業構想（3）授業構想の方法と実際について			
第4回：国語科教育における授業構想（4）教師教育力と授業構想力について			
第5回：授業構想と教材研究（1）単元の構想について			
第6回：授業構想と教材研究（2）教材研究による授業改善について			
第7回：教材研究の方法（1）教科書教材と教材研究について			
第8回：教材研究の方法（2）自主教材の活用の在り方について			
第9回：教材研究の実際（3）授業デザインとしての教材開発について			
第10回：教材研究の実際（4）「話すこと・聞くこと」における教材研究について			
第11回：教材研究の実際（5）「書くこと」における教材研究について			
第12回：教材研究の実際（6）「読むこと」における教材研究について			
第13回：協働学習のための教材開発（1）主体的・対話的で深い学びのための教材について			
第14回：協働学習のための教材開発（2）班別学習のための教材作成について			
第15回：教材研究の可能性（1）現在の問題点と今後の課題について			
定期試験は実施しない。			

テキスト

『実践国語科教育法―「楽しく、力のつく」授業の創造』（町田守弘編著、学文社）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する

学生に対する評価

平常点（４０％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（４０パーセント）、模擬授業形式の演習（２０パーセント）

授業科目名： 書道科教育特論A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 大池茂樹
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 国語、高等学校 書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
本特論は書道科教育における「書道文化論」と位置付ける。到達目標は次のとおり。 ・書学、書道史の個々の事象について説明することができる。 ・書論についての問題を明示し、論説することができる。 ・日本文学・日本語文化を考察する上で、いかに書道文化が深くかかわっているかを理解することができる。 ・研究倫理のルールについて理解し実践することができる。			
授業の概要			
書道科教育の基本として、書学・書道史・書論の様々な様相について、歴史と理論の視点から講義する。書道文化に関する資料を提示するので、資料を読んで疑問点・問題点を出しながら、文化としてまた芸術としての「書」の様相を探究していく。 また、県内の高等学校書道教育の実態をふまえ、学校図書館やコンピュータを使い情報通信ネットワークを活用した授業展開など、生徒の特性、地域や学校の実態に応じて柔軟に対応する態度も身に着ける。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、研究倫理について 書学、書道史、書論とは 資料の扱い方と研究倫理			
第2回：中国書道史論 中国古代から唐時代まで、中国宋時代から現代まで			
第3回：日本書道史論 古代から平安時代まで、鎌倉時代から現代まで			
第4回：書論史 中国の書論史、日本の書論史			
第5回：書作家論 中国の能書家、日本の能書家			
第6回：書作品論 中国の書の美、日本の書の美			
第7回：用筆論 中国の用筆、日本の用筆			
第8回：金石論 中国の金石、日本の金石			
第9回：篆刻芸術 中国の篆刻、日本の篆刻			
第10回：碑と法帖 中国の碑・法帖、日本の碑・法帖			
第11回：漢字書体論 篆書・隸書・楷書・行書・草書			
第12回：かな書道と書流 上代仮名、かなの流儀流派			

第13回：器具・用具 筆・墨・硯・紙、書道の様々な用具

第14回：現代書道論 現代書道の様相

第15回：まとめ 書道の文化と書道芸術についての理解

定期試験は実施しない。

テキスト

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

『中国書道文化辞典』（柳原出版）、『中国書道辞典』（木耳社）、『日本書道辞典』（二玄社）ほか

学生に対する評価

平常点（50%） 課題・レポート（50%）

授業科目名： 書道科教育特論B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大池茂樹
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 国語、高等学校 書道道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
本特論は書道科教育における「書道教育論」と位置付ける。到達目標は次のとおり。 ・ 書道教育の歴史と制度について、把握認識することができる。 ・ 学校書写書道教育と社会における書道教育についての現状と問題について論理的に説明することができる。 ・ 実践的な立場から書写書道教育を述べることができる。 ・ 研究倫理のルールについて理解し実践することができる。			
授業の概要			
書道科教育の基礎として、書道教育の歴史・制度・理論・実践について講義する。『書写・書道教育史資料』（東京法令）を読みながら、書道教育の歴史・制度・理論・実践について考察し、書教育についての理解を深める。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、研究倫理について 書道教育について、資料の扱い方と研究倫理			
第2回：江戸期以前の書教育 平安時代までの手習い、中世の手習い			
第3回：江戸期の書教育 江戸前半期の手習い、江戸後半期の手習い			
第4回：明治・大正期の書教育 明治維新から35年までの習字教育、明治36年から大正時代の書キ方教育			
第5回：昭和戦前期の書教育 昭和15年までの書キ方教育、昭和16年から終戦までの習字教育			
第6回：昭和戦後期の書教育 戦後の書道教育復活まで、昭和26年以降の習字教育 習字から書写へ			
第7回：平成期の書教育 平成元年版・10年版・20年版・30年版学習指導要領による書写書道教育			
第8回：学校書写・書道教育 小中学校の書写教育、高等学校の書道教育			
第9回：小学校の書写教育と実践 小学校の毛筆教育の実際、小学校の硬筆教育の実際			
第10回：中学校の書写教育と実践 中学校の毛筆教育の実際、中学校の硬筆教育の実際			
第11回：高等学校の書道教育と実践 書の表現における指導の実際、書の鑑賞における指導の			

実際

第12回：生涯学習としての書道教育と実践 実社会における書道、書道による生涯教育

第13回：芸術としての書道教育と実践 書道による芸術の啓蒙、美術館・博物館における書道の位置付け

第14回：生活文化としての書道教育と実践 「道」による精神文化の醸成、書道による行儀作法の感化啓蒙

第15回：最新の書教育事情、まとめ 最新の学習指導要領と書写書道教育、学校図書館や情報機器の活用法

定期試験は実施しない。

テキスト

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

『書写・書道教育史資料』（東京法令）ほか

学生に対する評価

平常点（50%） 課題・レポート（50%）

授業科目名： 教育開発論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 久野弘幸
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の基礎的理解に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
「教育開発論」では、前半を「探究型授業開発講義」、後半を「探究型授業開発演習」と位置づけ、それぞれ講義並びに演習の授業形態とする。前半の講義では、探究型授業に関する基礎概念を習得し、後半の演習では、調査活動を含む探究型授業の開発を実地に経験する。これにより、授業全体を通じて、現代の教育課程における探究の意味を理解し、その実践的能力の育成を図ることを目標とする。			
授業の概要			
前半の「講義」では、現代の教育課程の変遷や重点を講義すると共に、教育課程（学習指導要領）を構造的に分析することにより、その特徴や構造を把握する。後半に予定している「演習」では、地域、産業、歴史の視点から探究課題を開発するために鳴海・有松などの近隣地域を対象としたフィールドワークを、また国際支援やグローバルな課題また SDGs の視点から探究課題を開発するために JICA や UNCRD など機関との協働を予定している。講義の内容を確認するために、附属高校や近隣の中学・高校の探究型授業の参観を行う。			
授業計画			
第1回：ガイダンスおよび授業のねらい、方法、実施計画、受講者の相互理解等について ＜探究型授業開発講義＞			
第2回：授業開発講義①：「探究型授業」の歴史的文脈、実践の具体、その意義と課題			
第3回：授業開発講義②：学習指導要領の構造と「個別最適な学び」「深い学び」の意味			
第4～5回：教育開発フィールドワーク①：開発的实践研究を行っている学校の研究会に参加し、実践研究の現場から教育開発についての知見を得る（詳細は、受け入れ先との調整による）			
第6回：授業開発講義③：カリキュラム・マネジメントによる教科間連携と外部との連携			
第7回：授業開発講義④：OECD Education2030及び「令和型学校教育」が描く探究型授業 ＜探究型授業開発演習＞			
第8回：授業開発演習①：グループによる探究型授業の開発（パート1：「探究課題」の構想）			
第9～10回：教育開発フィールドワーク②：地域、産業、歴史、人などの素材とSDGsの視点を関連させながら、受講生が自分で開発を行う探究課題についての知見を得る			
第11回：授業開発演習②：グループによる探究型授業の開発（パート2：授業展開の構想）			
第12回：授業開発演習③：グループによる探究型授業の開発（パート3：指導略案の作成）			

第13回：授業開発演習④：探究型授業に関する模擬授業型発表（前半）

第14回：授業開発演習⑤：探究型授業に関する模擬授業型発表（後半）

第15回：教育開発論のリフレクション：授業を通して身についた（めざす）「資質・能力」は何か？

最終課題

テキスト

1) 奈須正裕著『個別最適な学びと協働的な学び』東洋館出版社、2021

2) 白井俊『OECD Education2030プロジェクトが描く教育の未来:エージェンシー、資質・能力とカリキュラム』ミネルヴァ書房、2020

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

①授業における主体的参加（学びに向かう態度：30%）

②授業における課題や問いに対する思考・判断・表現（40%）

③最終課題（知識・技能：30%）

授業科目名： 現代教育の諸課題	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 原口 友輝
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の基礎的理解に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業では、現代の教育に関わる諸問題及び諸課題について、それらの現状及び鍵となる基礎的な概念を習得し、自分との関わりも含めて教育の観点から多面的・多角的に論じられるようになることを目的としている。具体的な到達目標は以下の通りである。			
・現代教育の諸問題及び諸課題について概要を述べることができる			
・現代教育の諸問題及び諸課題を論じるために必要となる基本的概念を、議論やレポート記述の際に活用することができる			
・現代教育の諸問題と諸課題について、自分とのかかわりを踏まえながら論じることができる			
・現代教育をめぐる諸問題と諸課題についての知見を学校教育の現場でどのように活かしていくことができるのかについて、論じることができる			
授業の概要			
授業前半においては、現代の教育政策の特徴、働き方改革、ICTの活用、いじめ問題への対応、マイノリティの生徒への配慮、持続可能な開発のための教育など、現代の教育に関わる諸問題を概観する。そのうえで受講者各自が自身でテーマを選び、選んだテーマについて調べてまとめ、発表を行う。さらに、それらについての知見を学校教育の現場でどのように活かしていくのか、授業内容や授業方法とあわせて検討する。履修者は最終的に、他者の発表による知見を踏まえながら、自らの選んだテーマについてのレポートを作成する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：本授業の概要			
第2回：新時代の日本型学校教育			
第3回：GIGAスクールとICT教育（デジタル教科書の活用等）			
第4回：学校・教師をめぐる問題と課題（働き方改革、「教師の学び」等）			
第5回：子どもをめぐる問題と課題（いじめ、ジェンダー平等、安全教育等）			
第6回：SDGsと「持続可能な開発のための教育」			
第7回：「困難な歴史」と「移行期の正義」をめぐる問題			
第8回：現代の教育を取り巻く諸問題と諸課題を考えるアクティビティ			
第9回：現代教育の諸課題に関する発表テーマと日程決め			
第10回：発表—教育政策に関して			

第11回：発表—ICT教育に関して

第12回：発表—学校・教師をめぐる問題に関して

第13回：発表—子どもをめぐる問題に関して

第14回：発表—SDGsと教育に関連して

第15回：まとめ—これからの学校教育の在り方、レポート指導

定期試験は実施しない。

テキスト

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

教育の未来を研究する会編著『最新教育動向2023 必ず押さえておきたい時事ワード60&視点120』（明治図書、2022年）。

その他、授業中に案内する。

学生に対する評価

毎回の小レポート等の提出物、発表、最終レポート等を総合して評価する。

授業科目名： English as an International Academic Language I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： マデリン モーリン ブーラ ンジェ
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 (1) English for discussion and debate among international academics. (2) Using English in a proper academic register when giving a paper. (3) How to handle 'Question and Answer' sessions following academic presentations. (4) Giving introductions for colleagues and academic speakers at a conference. (5) Practical English for social gatherings within an academic setting. 本科目の目標は以下の通りである。 (1)国際的な学術的場面における議論・討論のための英語力養成 (2)論文執筆に際する学術的領域の英語の適正な使用法の涵養 (3)研究発表に際する「質疑応答」への対応 (4)学会における共同発表者・後援者等の紹介 (5)学術的会合における実地的な英語使用			
授業の概要 This class is designed to give Chukyo University graduate students practical oral skills in using English as an academic language in international settings. Whether travelling to conferences or workshops held overseas, or needing to interact with foreign scholars who are visiting Japan, students need the ability to function in English for a variety of purposes, and in a variety of genres 本科目は、中京大学の大学院生に対して、国際的な状況における実践的な英語会話及び運用の技術を提供することを目的としている。海外での学会やワークショップ、及び日本を訪問する他国の研究者とのやり取りに必要な多種多様な目的とジャンルに必要な英語の運用を獲得することを目指す。			
授業計画 第1回：Course Introduction 授業概要説明 第2回：Purpose of Academic Conferences 学術会議の目的 第3回：Academic Communication on Campus 大学における学術的コミュニケーション 第4回：Navigating Campus at International Conference 学術会議におけるキャンパス・ツアー			

第5回 : Conference Formats 学術会議の形式

第6回 : Panel Discussion I パネル・ディスカッションI

第7回 : Panel Discussion II パネル・ディスカッションII

第8回 : Hosting and Participating in Panel Discussion パネル・ディスカッションの司会及び発表者を務める

第9回 : Poster Presentation I/ Presentation ポスタープレゼンテーションI/研究発表

第10回 : Making Slides and Script 発表スライドと原稿の作成

第11回 : Workshop: Feedback on Script ワークショップ : 原稿チェック

第12回 : Workshop: Feedback on Slides ワークショップ : 発表スライドチェック

第13回 : Presentations with Q&A 研究発表及び質疑応答

第14回 : Presentations with Q&A 研究発表及び質疑応答

第15回 : Presentation with Q&A 研究発表及び質疑応答

定期試験

テキスト

Academic John M. Swales & Christine B. Feak. Writing for Graduate Students: Essential Tasks and Skills. 3rd Edition University of Michigan Press./Adrian Wall. English For Presentations at International Conferences. Springer Press/ John M. Swales & Christine Feak. English in Today's Research World. University of Michigan Press

参考書・参考資料等

Provided by instructor 授業時に配布する

学生に対する評価

Class Participation: 50% Using English in class, discussing topics and asking questions, completing homework, etc.

Class Project: 50% Writing assignments, role-plays, presentations, etc.

授業への参加 : 50% (受講時の英語の運用、討論及び質疑、課題実践等)

授業内プロジェクト : 50% (レポート課題、ロールプレイング、研究発表等)

授業科目名： English as an International Academic Language II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： マデリン モーリン ブーラ ンジェ 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 (1) English for discussion and debate among international academics ^[1] (2) Using English in a proper academic register when giving a paper ^[2] (3) How to handle 'Question and Answer' sessions following academic presentations ^[3] (4) Giving introductions for colleagues and academic speakers at a conference ^[4] (5) Practical English for social gatherings within an academic setting 本科目の目標は以下の通りである。 (1) 国際的な学術的場面における議論・討論のための英語力養成 (2) 論文執筆に際する学術的領域の英語の適正な使用法の涵養 (3) 研究発表に際する「質疑応答」への対応 (4) 学会における共同発表者・後援者等の紹介 (5) 学術的会合における実地的な英語使用			
授業の概要 This class is designed to give Chukyo University graduate students practical oral skills in using English as an academic language in international settings. Whether travelling to conferences or workshops held overseas, or needing to interact with foreign scholars who are visiting Japan, students need the ability to function in English for a variety of purposes, and in a variety of genres 本科目は、中京大学の大学院生に対して、国際的な状況における実践的な英語会話及び運用の技術を提供することを目的としている。海外での学会やワークショップ、及び日本を訪問する他国の研究者とのやり取りに必要な多種多様な目的とジャンルに必要な英語の運用を獲得することを目指す。			
授業計画 第1回：Course Introduction 授業概要説明 第2回：Writing an Academic Biography/ Introducing yourself at conferences 研究経歴書の書き方/学会における自己紹介の仕方 第3回：Calls for Papers/ Email for Academic Communication 投稿・発表募集/アカデミック・コミュニケーションにおけるEメールの作法 第4回：Writing Conference Abstracts & Proposals 発表梗概・提案書の書き方 第5回：Email for Academic Communication II /Presentation Strategies アカデミック・コミュニケーションにおけるEメールの作法Ⅱ/研究発表の進め方			

第6回：Writing a Script/ Making Handouts and Slides I 発表原稿執筆：ハンドアウトとスライドの作り方I

第7回：Writing a Script/ Making Handouts and Slides II 発表原稿執筆：ハンドアウトとスライドの作り方II

第8回：Writing a Script/ Making Handouts and Slides III 発表原稿執筆：ハンドアウトとスライドの作り方III

第9回：Workshop: Feedback on Scripts ワークショップ：発表原稿チェック

第10回：Workshop: Feedback on Scripts ワークショップ：発表原稿チェック

第11回：Workshop: Feedback on Slides ワークショップ：発表原稿チェック

第12回：Workshop: Feedback on Slides ワークショップ：発表原稿チェック

第13回：Presentations with Q&A 研究発表実践及び質疑応答

第14回：Presentations with Q&A 研究発表実践及び質疑応答

第15回：Presentation with Q&A 研究発表実践及び質疑応答

定期試験

テキスト

John M. Swales & Christine B. Feak. *Academic Writing for Graduate Students: Essential Tasks and Skills*. 3rd Edition University of Michigan Press./Adrian Wall. *English For Presentations at International Conferences*. Springer Press/ John M. Swales & Christine Feak. *English in Today's Research World*. University of Michigan Press

参考書・参考資料等

Provided by instructor 授業時に配布する。

学生に対する評価

Class Participation: 50%^[1] Using English in class, discussing topics and asking questions, completing homework, etc.

Class Project: 50%^[1] Writing assignments, role-plays, presentations, etc.

授業への参加：50%（受講時の英語の運用、討論及び質疑、課題実践等）

授業内プロジェクト：50%（レポート課題、ロールプレイング、研究発表等）

授業科目名： 言語文化特別講義	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長滝祥司
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
言語と文化について哲学的知見を踏まえて理解できる			
授業の概要			
言語と文化という現象を身体性やメディア、心理といった観点から解説する。			
授業計画			
第1回：はじめに——言語と文化を理解することの意義について			
第2回：言語の起源への旅——『クラテュロス』における言語の本性1			
第3回：ミメシスと詩的言語——『クラテュロス』における言語の本性2			
第4回：言語記号と意味——ソシュールの言語思想			
第5回：記号と実在——パンヴェニストのソシュール批判			
第6回：言語の身体性について——認知意味論1			
第7回：メタファーと記号——認知意味論2			
第8回：前半のまとめとディスカッション			
第9回：指示と対象——フレーゲの思想			
第10回：『幾何学の起源』とエクリチュールをめぐって			
第11回：真理と解釈について——フッサールの思想			
第12回：知覚と意味について——現象学的知覚論			
第13回：知覚の哲学と言語			
第14回：観相学と顔の記号性をめぐって			
第15回：後半のまとめとディスカッション			
レポート提出			
テキスト			
長滝祥司『メディアとしての身体』東京大学出版会			
参考書・参考資料等			
長滝祥司『知覚とことば』ナカニシヤ出版			

学生に対する評価

平常点50%・レポート50%

授業科目名： 言語文化特別講義	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 樹本 健
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
日本語をめぐる思想史・比較思想をテーマとする。到達目標は以下の通り。 1) 日本語の書記体系を歴史的な視点から説明できる。 2) 漢字・漢文文化圏としての日本についての理解を深める。 3) 近代日本の形成を言語的観点から説明できる。 4) 古典や学術的文献を読解し解釈するスキルを身につける。			
授業の概要			
このコースでは、思想史・比較思想の観点から日本における言語思想の歴史的展開を主題化する。古代以来近代までの日本語をめぐる諸問題、具体的には、漢字・漢文文化圏、『古事記』『日本書紀』と言語問題、徳川儒学における言語思想、国学によるやまと言葉の発見、明治期の言文一致と国語形成、植民地帝国と日本語などを扱う。			
授業計画			
第1回：はじめに：日本語の思想史			
第2回：漢字・漢文文化圏（1）：万葉仮名			
第3回：漢字・漢文文化圏（2）：漢文訓読			
第4回：『古事記』『日本書紀』（1）：『古事記』の言語問題			
第5回：『古事記』『日本書紀』（2）：『日本書紀』の言語問題			
第6回：『古事記』『日本書紀』（3）：『古事記』『日本書紀』の比較			
第7回：徳川儒学における言語思想（1）：徳川儒学の展開			
第8回：徳川儒学における言語思想（2）：荻生徂徠の言語論			
第9回：国学によるやまと言葉の発見（1）：国学思想の展開			
第10回：国学によるやまと言葉の発見（2）：本居宣長『古事記伝』			
第11回：明治期の言文一致と国語形成（1）：漢字廃止論			
第12回：明治期の言文一致と国語形成（2）：言文一致と国語			
第13回：植民地帝国と日本語（1）：アイヌ・琉球における日本語教育			
第14回：植民地帝国と日本語（2）：台湾・朝鮮半島における日本語教育			
第15回：まとめ			

テキスト

教科書は特に用いない。

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

平常点（20%）、小テスト（20%）、学期末レポート（60%）

授業科目名： アカデミック・スキルズ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： ジェームズ・F・ダンジェロ
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 Academic Skills アカデミック・スキルズ			
授業の概要 Students will develop the necessary study skills to succeed in a Masters' Program. These include note-taking, academic reading, identifying key concepts, time management, and presentation design. Students will also develop critical thinking, questioning and discussion skills. 学生は、修士課程で成功するために必要な学習スキルを身につけます。ノートの取り方、アカデミックリーディング、重要な概念の特定、時間管理、プレゼンテーションのデザインが含まれます。学生はまた、批判的思考、質問、ディスカッションのスキルを身につけます。			
授業計画 第1回：Note-taking Skills メモを取るスキル 第2回：Reading Academic Materials 学術資料を読む 第3回：Identifying Key Concepts 重要な概念の特定 第4回：Time Management and Correct Attitude 時間管理と正しい態度 第5回：Presentation Design for Comprehension 理解のためのプレゼンテーションデザイン 第6回：The Art of Questioning 質問の芸術 第7回：Critical Thinking versus Criticality 批判的思考と批判性 第8回：Taking an Active Part in Discussion ディスカッションへの参加 定期試験: None 筆記試験は実施しない			
テキスト 教授が配布する資料			
参考書・参考資料等 Stella Cottrell <i>The Study Skills Handbook</i> , (5 th edition, 2019, Bloomsbury)			

学生に対する評価

Class Preparation: 60% 授業への参加 : 60%

Final Presentation: 40% 授業での発表 : 40%

授業科目名： リサーチ・メソッド	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： ジェームズ・F・ダンジェロ 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 Research Methods リサーチ・メソッド			
授業の概要 Students will reach a basic understanding of quantitative, qualitative, and mixed methods approaches. As a short course, we cannot go into great detail, but will operate at a higher macro level. For each methodology, students will learn key issues in data collection, data analysis, and reporting research results. 学生は、定量的、定性的、および混合方法のアプローチの基本的な理解に到達します。短期的なコースであるため、詳細な説明はできないが、より高いマクロレベルで運用します。それぞれの方法論について、学生はデータ収集、データ分析、研究結果の報告における重要な問題点を学びます。			
授業計画 第1回： Framing a Good Research Problem 優れた研究問題の枠組み 第2回： Choosing the Right Method 適切な方法の選択 第3回： Data Collection in Qualitative Research 定性調査におけるデータ収集 第4回： Data Analysis in Qualitative Research 定性調査におけるデータ分析 第5回： Reporting Research Results in Qualitative Research 定性調査における調査結果の報告 第6回： Data Collection in Quantitative Research 定量調査におけるデータ収集 第7回： Data Analysis in Quantitative Research 定量調査のためのデータ分析 第8回： Reporting Research Results in Quantitative Research 量的研究における研究結果の報告 定期試験： None 筆記試験は実施しない			
テキスト 教授が配布する資料			

参考書・参考資料等

Timothy C. Urdan *Statistics in Plain English*, (2016, Routledge, 4th ed.)

Zoltan Dornyei *Research Methods in Applied Linguistics* (2007, Oxford)

学生に対する評価

Class Preparation: 70% 授業への参加 : 70%

Final Research Project: 30% 学期末研究プロジェクト : 30%

授業科目名： エクスポジトリ・ライ ティング	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： ジェームズ・F・ダンジェロ
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 Expository Writing エクスポジトリ・ライティング			
授業の概要 Students will develop the ability to write effective expository essays, an essential genre of the master's thesis. You will investigate a topic, evaluate evidence, and present an argument in a clear and concise manner. The focus will be on developing sound arguments based on effective use of references, and on refining the grammar and phrasing of academic writing. 学生は、修士論文の重要なジャンルであるエクスポジトリ・ライティングの効果的な書き方を身につけます。学生はトピックを調査し、証拠を評価し、明確かつ簡潔な方法で議論を提示します。参考文献の効果的な使用に基づいて健全な議論を展開し、アカデミックライティングの文法と言い回しを洗練することに焦点を当てます。			
授業計画 第1回：Developing a Topic トピックの開発 第2回：Developing a Thesis Statement 論文ステートメントの作成 第3回：Deciding on a Structure for your Essay エッセイの構成を決める 第4回：Gathering Supporting Evidence 裏付けとなる証拠の収集 第5回：Effective Paragraphs and Transition 有効な段落と遷移 第6回：The Elements of Style スタイルの要素 第7回：Writing in Academic Register 批学籍簿への記入 第8回：Tying it all Together すべての結び付ける 定期試験: None 筆記試験は実施しない			
テキスト 教授が配布する資料			

参考書・参考資料等

Curl Mervin James *Expository Writing*, (2015, Palala Press)

学生に対する評価

Class Preparation: 60% 授業への参加 : 60%

Final Essay: 40% 学期末レポート : 40%

授業科目名： 現代言語科学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 土橋善仁
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
英語という言語を通じて人間言語の (1) 音声及び音韻の仕組み、(2) 文法体系 (形態・統語)、(3) 歴史的変遷及び国際的広がりを理解する。			
授業の概要			
英語という言語を通じて人間言語に対する理解を深めるために、音声、音韻、形態、統語、歴史、そして国際共通語としての英語の各側面について概観・把握する。これらの知識をもとに、英語という言語がどのように言語学という分野で科学的に分析されているのか、練習問題を解くことで理解を深める。			
授業計画			
第1回：音声学・音韻論：発声と調音			
第2回：音声学・音韻論：音素と異音			
第3回：音声学・音韻論：音節構造			
第4回：音声学・音韻論：アクセント・イントネーション・リズム			
第5回：形態論：語とは何か			
第6回：形態論：語形成における規則性			
第7回：形態論：複合・派生・転換			
第8回：統語論：句構造			
第9回：統語論：格と意味役割			
第10回：統語論：変換			
第11回：統語論：統語構造の意味解釈			
第12回：英語史：英語以前から古英語			
第13回：英語史：中英語から近代英語			
第14回：世界の英語：アメリカ英語、イギリス英語			
第15回：世界の英語：黒人英語、オーストラリア英語			
定期試験			
テキスト			
『日英語対照による英語学概論 (増補版)』西光義弘 (編)、くろしお出版 1997			

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介または配付する。

学生に対する評価

課題5回（50％）、定期試験（50％）

授業科目名： 理論言語学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野村昌司
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
(1) 生成文法理論の根底に一貫して流れる考え方や研究指針を理解する。			
(2) 言語現象の詳細で明示的な記述の背後にある抽象的な一般原理を理解する。			
(3) 個別言語にとらわれない人間言語一般の普遍的規則の探求を進め、人間言語の基本特性について深く考える能力を身につける。			
授業の概要			
(1) 生成文法の約70年に渡る研究の重要な研究結果や考えを吟味し、様々な課題に取り組む。			
(2) その中で特に関心のある課題について調査・考察・発表・議論する。			
授業計画			
第1回：自然科学としての言語学、生成文法の目標と方法			
第2回：極小モデルの展開（理論的背景・極小モデルの基本的発想と考え方）			
第3回：極小モデルの展開（極小モデルにおけるUniversal Grammarの構成）			
第4回：極小モデルの展開（経済性原理・言語の科学は可能か）			
第5回：言語の普遍性と多様性			
第6回：The minimalist project			
第7回：Some architectural issues in a minimalist setting			
第8回：Theta domains			
第9回：Case domains			
第10回：Movement and minimality effects			
第11回：Phrase structure			
第12回：Linearization			
第13回：Binding Theory			
第14回：Feature interpretability and feature checking			
第15回：Derivational economy			
テキスト：福井直樹（著）『新・自然科学としての言語学』ちくま学芸文庫 2012.			
Hornstein, Norbert, Jairo Nunes, and Kleanthes K. Grohmann 2005. Understanding Minimalism. Cambridge University Press.			

参考書・参考資料等
なし
学生に対する評価
復習レポートの提出(30%)、授業中の議論への参加・発表(30%)、学期末レポート(40%)

授業科目名： 共時言語学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡見友里江
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
スペイン語と日本語（可能であれば英語）の文法を比較し、対照研究を行うための文献読解力をつけ、先行研究を批判的に分析・検討していくスキルを身につけることを目標とする。			
授業の概要			
スペインの王立アカデミアの伝統文法を精読し、その後最新のスペイン語学に関する文献を批判的に検討する。その際、関連する分野の英語や日本語、その他の言語に関する文献にも広くあたり、いくつかの言語を比較して見えてくる共通性と多様性について考察していく。			
授業計画			
第1回：導入 スペイン語学の流れ、研究史 Real Academia Españolaによる伝統文法について			
第2回：A. Bello (1847), Esbozo (RAE, 1973) における文法記述			
第3回：GDLE (1999) における文法記述			
第4回：NGLE (2009) における文法記述			
第5回：スペイン語形態論 語形成			
第6回：スペイン語形態論 派生			
第7回：スペイン語形態論 複合			
第8回：スペイン語の品詞体系 記述法			
第9回：スペイン語の品詞体系 品詞間の流動性			
第10回：スペイン語の品詞体系 品詞カテゴリーの分布			
第11回：スペイン語統語論 文の構造			
第12回：スペイン語統語論 項構造の記述			
第13回：スペイン語統語論 叙述補語、状況補語			
第14回：スペイン語教授法 シラバスと到達目標			
第15回：スペイン語教授法 ある特定のテーマに関する模擬授業			
テキスト Nueva gramática básica de la lengua española, (RAE y AALE, 2011)			
毎回レジメ、資料を用意する。			

参考書・参考資料等

Esbozo (RAE, 1973), GDLE (1999), NGLE (2009) , Bosque (1991) など。

学生に対する評価

毎回の授業レポート30%、最終レポート70%

授業科目名： 心理言語学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大滝 宏一 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
「心理言語学」とは、実験などの心理学的な手法を用いて人間の文法知識を明らかにすることを目指す研究分野である。この授業では、心理言語学研究で用いられる方法を理解・修得するとともに、学生自らが発案して心理言語学研究を行うことができるようになることを目指す。この授業の到達目標は以下の通りである。 (1) 心理言語学研究の特徴と意義（純粋な理論研究と何が違うのか）を理解する。 (2) 心理言語学研究で用いられている方法を理解し、（そのうちいくつかを）修得する。 (3) 心理言語学に関する先行研究の批判的検討を通して、新しい研究プロジェクトを発案できるようになる。			
授業の概要			
心理言語学における主要なトピック（文処理研究・母語獲得研究・第二言語獲得研究，など）に関して、先行研究を批判的に検討しながらそれらの研究の理解を深めるとともに、各々の研究が採用している研究（実験）手法に関しても、授業内で実践しながら学ぶ。また、学生は授業で学んだ内容をもとに、心理言語学に関する新しい研究プロジェクトを考え、実験計画を立案してレポートとしてまとめる。			
授業計画			
第1回：イントロダクション（授業の概要の説明）			
第2回：心理言語学とは（心理言語学研究の特徴・意義など）			
第3回：文処理研究①（講義）			
第4回：文処理研究②（自己ペース読み課題）			
第5回：文処理研究③（実験デザイン）			
第6回：文処理研究④（IBEXを使った実験）			
第7回：文処理研究⑤（視線計測を使った実験）			
第8回：母語獲得研究①（講義）			
第9回：母語獲得研究②（真偽値判断課題・発話誘引課題）			
第10回：母語獲得研究③（視線計測を使った実験）			
第11回：第二言語獲得研究①（講義）			

第12回：第二言語獲得研究②（容認性判断課題） 第13回：第二言語獲得研究③（自己ペース読み課題を使った実験） 第14回：第二言語獲得研究④（視線計測を使った実験） 第15回：学生発表
テキスト 使用しない。適宜，授業で資料を配布する。
参考書・参考資料等 中谷健太郎（編）(2019)『パソコンがあればできる!ことばの実験研究の方法』ひつじ書房 Goodall, G. (Ed.) (2021) The Cambridge Handbook of Experimental Syntax. Cambridge University Press.
学生に対する評価 期末レポート [50%] 授業への貢献度（授業内での発言/質問・リアクションシートへの記入など） [50%]

授業科目名： 現代英語学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 都築雅子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 日本語と比較しながら英語の構文的・意味論的・語用論的特性を考察することより、英語の特性について深く理解し、運用することができる。			
授業の概要 英語の様々な構文的・意味論的・語用論的特性に関する論考を輪読する。 その際、オーセンティックな例文データをもとに考察し、英語の特性の理解を深める。			
授業計画 第1回：テンス・アスペクト 第2回：関係節 第3回：再帰代名詞の解釈の日英比較 第4回：条件文（現実的条件と非現実的な条件） 第5回：there構文 第6回：存在文と知覚構文 第7回：知覚構文の日英比較 第8回：自発動詞の日英比較 第9回：主張的述語と非主張的述語 第10回：認識述語の意味解釈 第11回：助動詞の意味解釈 第12回：文副詞の日英比較 第13回：分詞構文の意味解釈 第14回：不定詞構文 第15回：感情を表す表現形式 定期試験			
テキスト 授業中に適宜資料を配布する。			

参考書・参考資料等	『現代意味解釈講義』澤田治美著（2014）開拓社 『続・現代意味解釈講義』澤田治美著（2016）開拓社
学生に対する評価	授業時輪読における担当箇所についての発表およびディスカッション（60％）、 提出してもらうレポート（40％）

授業科目名： 現代英語学演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 都築雅子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 日本語と比較しながら英語の構文的・意味論的・語用論的特性を考察することにより、英語の特性を深く理解できると共に、科学的考察の仕方が身に着く。			
授業の概要 担当者を決め、英語の意味論的・語用論的特性に関する主要な論考について概要を解説してもらう。その上で、皆で考察・分析していく。			
授業計画 第1回：モダリティと命題内容 第2回：文モダリティと談話モダリティ 第3回：文モダリティ 第4回：談話モダリティ 第5回：there構文 第6回：知覚構文 第7回：思考動詞 第8回：認識述語（動詞） 第9回：文副詞類 第10回：条件文（1） 第11回：条件文（2） 第12回：認識述語（助動詞 1） 第13回：認識述語（助動詞 2） 第14回：情報構造—話題化構文 第15回：情報構造—焦点化構文 定期試験			
テキスト 授業中に適宜資料を配布。			

参考書・参考資料等

『認知意味論の原理』中右実著(1994)大修館書店/『現代意味解釈講義』澤田治美著(2014)開拓社/『続・現代意味解釈講義』澤田治美著(2016)開拓社

学生に対する評価

担当する論考についての発表およびディスカッション(60%)、レポート(40%)

授業科目名： 英語構造特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中川直志
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 言語分析に必要な理論的知識を、その意義を理解しつつ、自分自身の研究で活用できるようになることを目標とする。			
授業の概要 生成文法理論の体系とその歴史的変遷を重要文献の解題等を通して理解すると共に、それらが、生成文法理論の研究目標といかに結びつくのか理解する。その上で、科学的言語研究の進め方について見識を深める。			
授業計画 第1回：生成文法理論の目標：生成文法誕生の背景、言語習得に対する考え方、研究倫理 第2回：GB理論（1）：原理とパラメーターのアプローチの体系 第3回：GB理論（2）：GB理論で提案された原理の体系 第4回：GB理論（3）：統率理論 第5回：GB理論（4）：束縛理論 第6回：GB理論（5）：GB理論で特に注目された現象と主要文献の理解 第7回：ミニマリストプログラム（1）：ミニマリストプログラムの歴史的背景 第8回：ミニマリストプログラム（2）：Bare Phrase Structure 第9回：ミニマリストプログラム（3）：照合理論 第10回：ミニマリストプログラム（4）：移動と併合 第11回：ミニマリストプログラム（5）：フェイズに基づく派生 第12回：ミニマリストプログラム（6）：ラベリング理論 第13回：ミニマリストプログラム（7）：今後の課題 第14回：ミニマリストプログラム（8）：主要文献解題 第15回：ミニマリストプログラム（9）：主要文献解題 定期試験			

テキスト なし
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。
学生に対する評価 毎回の授業の最初に行う小テスト（70％）、授業中の発表やレポート（30％）

授業科目名： 英語構造演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中川直志
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 理論や分析の妥当性について主体的に判断できるようになると共に、自律的に研究を進める姿勢を身につける。			
授業の概要 生成文法理論に基づいて書かれた文献等を精読しつつ、脳内にあるシステムとしての言語について理解を深めると共に、文献の解題を通して科学的かつ建設的批判能力を養う。さらに、必要に応じて関連文献のオーラル・レポート等を行い、最新の研究動向を理解する。			
授業計画 第1回：ミニマリストプログラム（1）：その基本的考え方と体系、研究倫理 第2回：ミニマリストプログラム（2）：主要原理とその適用例 第3回：ミニマリストプログラム（3）：主要原理とその適用例 第4回：ミニマリストプログラム（4）：今後の課題と解決の方向性 第5回：主要文献講読（1）：主要文献の解題、批判的考察 第6回：主要文献講読（2）：主要文献の解題、批判的考察 第7回：主要文献講読（3）：主要文献の解題、批判的考察 第8回：主要文献講読（4）：主要文献の解題、批判的考察 第9回：オーラル・レポート（1）：各自が注目する文献の紹介 第10回：オーラル・レポート（2）：各自が注目する文献の紹介 第11回：オーラル・レポート（3）：各自が注目する文献の紹介 第12回：オーラル・レポート（4）：各自が注目する文献の紹介 第13回：研究発表（1）：各自の研究について報告 第14回：研究発表（2）：各自の研究について報告 第15回：研究発表（3）：各自の研究について報告 定期試験			
テキスト なし			

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

オーラルレポートや研究発表に対する評価（60％）

随時行う小テストの成績（40％）

授業科目名： 英語歴史特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松元洋介
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
英語の歴史の中で起こった様々な言語変化に対して、統語論（主に生成文法）の観点からの説明・分析の方法を身に着けることを目標とする。具体的には、①英語史に関する専門書の精読を通じて言語変化の知識の習得、②参考文献・引用文献の報告に基づいた多角的な視点の養成、③批判的かつ建設的な解決策を提案する能力を身に着けることである。			
授業の概要			
英語史で起こった様々な言語変化に対して、専門書の精読を通じて統語論に基づいた説明・分析を行う能力を養うことを目標とする。専門書の精読にあたっては、受講者は担当箇所を細部にわたって読み込み、あらゆる問題点・解決案についてディスカッションを行う。			
授業計画			
第1回：授業の進め方、英語史の概要			
第2回：古英語の形態論			
第3回：古英語の統語論			
第4回：中英語の形態論			
第5回：中英語の統語論			
第6回：近代英語の形態論			
第7回：近代英語の統語論			
第8回：動詞第二位現象			
第9回：動詞第二位現象の消失			
第10回：OV語順（古英語の語順）			
第11回：OV語順からVO語順への変化			
第12回：動詞・不変化詞構文の変化			
第13回：不定詞構文の変化			
第14回：tough構文の変化			
第15回：授業の総括			
定期試験			

テキスト

初回授業にて指示する。

参考書・参考資料等

Fischer, Olga, Ans van Kemenade, Willem Koopman and Wim van der Wurff (2000) *The Syntax of Early English*, Oxford University Press.

学生に対する評価

授業に対する準備（50％）、レポート課題（50％）

授業科目名： 英語歴史演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松元洋介
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
英語の歴史の中で起こった様々な言語変化に対する統語論（主に生成文法）の観点からの独自の説明・分析に対して、代案の提案力を身に着けることを目標とする。具体的には、①英語史に関する学術論文を資料（パワーポイントや配付資料）にまとめて口頭発表する、②それぞれの論文に対する問題点を指摘する、③独自の考察や電子コーパス調査を踏まえた上で解決策を提案することを課題とする。			
授業の概要			
英語史で起こった様々な言語変化に対して、学術論文の内容報告・ディスカッションを通じて統語論に基づいた代案の提案力を身につけることを目標とする。			
授業計画			
第1回：授業の進め方			
第2回：先行研究の総括			
第3回：先行研究の問題点の指摘			
第4回：論考の方針決定（1）：先行研究の問題点の改善策の考察			
第5回：論考の方針決定（2）：最終的な主張の決定			
第6回：資料収集の準備			
第7回：資料収集の実践			
第8回：論文の構成（1）：序論			
第9回：論文の構成（2）：先行研究			
第10回：論文の構成（3）：分析			
第11回：論文の構成（4）：結論			
第12回：論文へのまとめ方（1）：盗用、書式、参考文献			
第13回：論文へのまとめ方（2）：ノートテイキング、アウトライン作成			
第14回：論考の執筆			
第15回：授業の総括			
定期試験			

テキスト

初回授業にて指示する。

参考書・参考資料等

Ringe, Donald and Ann Taylor (2017) *The Development of Old English*, Oxford University Press.

学生に対する評価

学術論文オーラル報告（50％）、レポート課題（50％）

授業科目名： 英語圏文化特論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 杉浦清文
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
授業では、ポストコロニアル理論を専門的に把握する上で重要な概念を包括的に考察する。その際、「植民地主義」、「帝国主義」、「西洋中心主義」、「オリエンタリズム」、「ナショナリズム」、「ハイブリディティ」、「ディアスポラ」、「クレオール」、「グローバリズム」、「惑星的思考」が重要なテーマとなる。 授業の到達目標は、次の4点にまとめることができる。 ①受講生は、ポストコロニアル理論を考察するなかで、英語圏の文学・文化に関する高度で専門的な知識を身に付けることができる。 ②受講生は、ポストコロニアル理論を（ガヤトリ・スピヴァクの言葉を借りるならば）「惑星」規模の視点から包括的に理解することができる。 ③受講生は、ポストコロニアル理論を検証するなかで、旧植民地から生み出された文学・文化を柔軟的かつ中立的な立場から専門的に理解することができる。 ④ 受講生は、ポストコロニアル理論の多様性を把握するなかで、現在のグローバル化時代における異文化交流の在り方について自らの高度で専門的な意見を世界に向けて発信することができる。			
授業の概要			
授業形態を講義（一部演習を含む）とし、伝統的な英語圏の文学・歴史・文化・思想を批判的に検証するために、難解なポストコロニアル理論を専門的に学ぶ。授業は、テキストJohn McLeod, <i>Beginning Postcolonialism</i> (Manchester: Manchester University Press, 2010)に沿って進められる。その際、毎回の授業で（英語または日本語の）補足資料を配布し、高度な文献整理力、文献分析力、文献読解力も養っていく。			
授業計画			
第1回：資本主義、植民地主義、帝国主義 マルクス主義再考			
第2回：植民地言説 ミシェル・フーコー、エドワード・サイード			
第3回：オリエンタリズム エドワード・サイード『オリエンタリズム』			
第4回：ナショナリズム ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』			

第5回：脱植民地運動 エメ・セゼール、フランツ・ファノン
 第6回：植民地と英語 英語帝国主義批判
 第7回：ポストコロニアル文学 文学と植民地闘争
 第8回：植民地主義とジェンダー ガヤトリ・スピヴァク「サバルタンは語ることができるか」
 第9回：ディアスポラ ポール・ギルロイ
 第10回：ハイブリディティ ホミ・バーバ
 第11回：新植民地主義 クワメ・エンクルマ
 第12回：グローバリズム アルジュン・アパデュライ
 第13回：＜新＞植民地主義 西川長夫
 第14回：グローバリズムとポストコロニアリティ 惑星的思考
 第15回：まとめ
 レポート試験

テキスト

John McLeod, *Beginning Postcolonialism* (Manchester: Manchester University Press, 2010)

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。その他の参考資料は以下の通りである。

Ania Loomba, *Colonialism/Postcolonialism* (London: Routledge, 2005)

西川長夫『植民地主義の時代を生きて』、平凡社 2013年

杉浦清文他『英語で読む現代世界の文化・社会・言語—植民地主義からグローバリゼーションへ』、英宝社、2015年

学生に対する評価

レポート試験（50％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（50％）

授業科目名： 英語圏文化演習Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 杉浦清文
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
授業では、カリブ海地域のポストコロニアル文学を原文（英語）で講読し、その地域で生み出された詩と小説を年代順に包括的に検証する。その際、とくに「人種問題」、「異種混雑性」（ハイブリディティ、クレオール）が重要なテーマとなる。 授業の到達目標は、次の4点にまとめることができる。 ①受講生は、カリブ海地域のポストコロニアル文学を考察するなかで、その地域の文学・文化に関する高度で専門的な知識を身に付けることができる。 ②受講生は、カリブ海地域のポストコロニアル文学を講読する中で、その地域の独自の英語用法を専門的に理解し精査することができる。 ③受講生は、カリブ海地域のポストコロニアル文学を「異種混雑性」（ハイブリディティ、クレオール）の視点から包括的に理解することができる。 ④受講生は、カリブ海地域のポストコロニアル文学を「人種問題」に着眼して考察するなかで、その地域の文学・文化を柔軟的かつ中立的な立場から専門的に分析することができる。 ⑤ 受講生は、カリブ海地域のポストコロニアル文学の多様性を把握するなかで、現在のグローバル化時代における異文化交流の在り方について自らの高度で専門的な意見を世界に向けて発信することができる。			
授業の概要			
授業形態を演習とし、伝統的な英語圏の文学・歴史・文化・思想を批判的に検証するために、カリブ海地域のポストコロニアル文学を専門的に学ぶ。授業は、テキストAlison Donnell and Sarah Lawson Welsh, <i>The Routledge Reader in Caribbean Literature</i> (London: Routledge, 1996)に沿って進められる。なお、毎回の授業において、受講生は（英語または日本語の）専門的な研究発表を行うことになる。その際、カリブ海地域のポストコロニアル文学に関する高度な文献整理力、文献分析力、文献読解力も養っていく。			
授業計画			
第1回：1900—29年のカリブ海地域の文学（1）		C.L.R ジェイムズ	
第2回：1900—29年のカリブ海地域の文学（2）		クロード・マッケイ	
第3回：1930—49年のカリブ海地域の文学（1）		ウナ・マーソン	

第4回：1930—49年のカリブ海地域の文学（2）	ルイズ・ベネット
第5回：1950—65年のカリブ海地域の文学（1）	ジョージ・ラミング
第6回：1950—65年のカリブ海地域の文学（2）	ジーン・リース
第7回：1966—1979年のカリブ海地域の文学（1）	カマウ・ブラスウェイト
第8回：1966—1979年のカリブ海地域の文学（2）	デレック・ウォルコット
第9回：1980—1989年のカリブ海地域の文学（1）	リントン・クウェシ・ジョンソン
第10回：1980—1989年のカリブ海地域の文学（2）	ジャマイカ・キンケイド
第11回：1990年代のカリブ海地域の文学（1）	デヴィッド・ダビディーン
第12回：1990年代のカリブ海地域の文学（2）	ローレンス・スコット
第13回：現代のカリブ海地域の文学（1）	キャリル・フィリップス
第14回：現代のカリブ海地域の文学（2）	エドウィージ・ダンティカ
第15回：まとめ	
レポート試験	
テキスト	
Alison Donnell and Sarah Lawson Welsh, <i>The Routledge Reader in Caribbean Literature</i> (London: Routledge, 1996)	
参考書・参考資料等	
授業中に適宜資料を配布する。その他の参考資料は以下の通りである。	
Ania Loomba, <i>Colonialism/Postcolonialism</i> (London: Routledge, 2005)	
John McLeod, <i>Beginning Postcolonialism</i> (Manchester: Manchester University Press, 2010)	
木村茂雄編著『ポストコロニアル文学の現在』、晃洋書房、2004年	
杉浦清文他『英語で読む現代世界の文化・社会・言語—植民地主義からグローバリゼーションへ』、英宝社、2015年	
学生に対する評価	
レポート試験（50％）、研究発表（50％）	

授業科目名： 英語圏文化特論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森 有礼
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
英語圏文化の多様な特徴について、特にアメリカ合衆国を中心とする北米の文学及び文化に焦点を当てて学修する。 本科目の履修者は、合衆国の文学及び文化についての包括的な知識を修得し、それらに関する歴史的推移及び地域的差異、及び当該地域の文学・文化のジャンルの固有性と多様性について広範な理解に到ることを目標とする。			
授業の概要			
本科目は基本的に担当教員による講義形式で進められる。受講生は毎回の授業に出席し、その主題と詳細について学修し、それらについての理解を深める。但し、適宜授業の理解度を確認するため、履修生は課題についてのプレゼンテーションと、履修者相互による討論を行うものとする。			
授業計画			
第1回：英語圏文化特論Ⅱ導入：アメリカ合衆国の歴史と文化の特徴			
第2回：探検記のアメリカ：アメリカ大陸発見から入植までの文学			
第3回：ピューリタンの新王国：北米大陸入植期の文学と社会			
第4回：大覚醒時代から理性の時代へ：1700年代前半の文学と社会			
第5回：アメリカの独立とヤンキーの誕生：アメリカ独立革命期の文学と社会			
第6回：アメリカ・ロマン主義に向けて1：世紀転換期の文学と社会			
第7回：アメリカ・ロマン主義に向けて1：超絶主義とアメリカン・ルネッサンスの文学			
第8回：奴隷体験記から戦争文学へ：南北戦争期の文学と社会			
第9回：中間プレゼンテーション：南北戦争までのアメリカの文学と社会を概括する			
第10回：金メッキ時代と「お上品な伝統」：再建期/復興期の文学と社会			
第11回：リアリズムから自然主義へ：世紀転換期の文学と社会			
第12回：二つの世界大戦とジャズエイジ：二十世紀前半の文学と社会			
第13回：若者達の世代の台頭：冷戦期の文学と社会			

第14回：現代アメリカの独自性と苦悩：二十一世紀の文学と社会

第15回：期末プレゼンテーション：19世紀後半以降のアメリカの文学と社会を概括する

定期試験

テキスト

授業中に適宜資料を配布する

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する

学生に対する評価

中間・期末のプレゼンテーション(各30%)、期末レポート(40%)

授業科目名： 英語圏文化演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森 有礼
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
英語圏文化の多様な特徴について、特にアメリカ合衆国を中心とする北米の文学及び文化に焦点を当てて学修する。			
本科目の履修者は、合衆国の文学及び文化についての包括的な知識を元に、それらに関する歴史的推移及び地域的差異、及び当該地域の文学・文化のジャンルの固有性と多様性について独自の観点から個人の研究課題を選定し、それについての研究発表を行うことを目標とする。			
授業の概要			
本科目は基本的に担当教員の指導による演習形式で進められる。受講生は毎回の授業の主題と詳細について学修し、それらについての理解を深めると共に、各授業の研究課題ごとにそれについてのリサーチ・プレゼンテーションと、受講生相互による討論を行うものとする。			
授業計画			
第1回：英語圏文化演習Ⅱ導入：アメリカの文学と文化研究の実際			
第2回：航海記を読む			
第3回：探検記を読む			
第4回：宗教詩を読む			
第5回：宗教文学を読む			
第6回：独立革命期の政治パンフレットを読む			
第7回：奴隷体験記を読む			
第8回：奴隷廃止論のパンフレットを読む			
第9回：南北戦争体験の記録を読む			
第10回：近代娯楽の発展についてのジャーナリズム記事を読む			
第11回：映画の誕生と発展に関する記事を読む			
第12回：戦争記録文学を読む1第一次世界大戦と第二次世界大戦			
第13回：戦争記録文学を読む1朝鮮戦争とヴェトナム戦争			
第14回：冷戦期の政治プロトコル文書を読む			
第15回：二十一世紀のマイノリティ運動の記録を読む			
定期試験			

テキスト

授業中に適宜資料を配布する

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する

学生に対する評価

各授業のプレゼンテーション(60%)、期末レポート(40%)

授業科目名： イギリス文化特論I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岩田 託子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 イギリスの政治・経済・社会制度をふまえたうえで文学・演劇・映画などを理解できる。			
授業の概要 基礎知識の確認とそれをふまえた文学・演劇・映画の例を紹介することで理解力を身につける。			
授業計画 第1回：政治の特徴と例示 第2回：階級の特徴①王室と例示 第3回：②上流階級と例示 第4回：③中流階級と例示 第5回：④労働者階級と例示 第6回：⑤アンダークラスと例示 第7回：教育制度の特徴と例示 第8回：新聞の特徴と例示 第9回：TVドラマの特徴と例示 第10回：ファッション産業の特徴と例示 第11回：英国美術の特徴と例示 第12回：小論文のテーマ策定の手引き 第13回：課題とする映像作品理解 第14回：課題とする文学作品読解 第15回：全体振り返り・質疑応答			
テキスト 随時紹介。			
参考書・参考資料等 『イギリス文化55のキーワード』 ミネルヴァ書房			

学生に対する評価

毎回授業での理解度をはかり学期末に小論文を課し定期試験にかえる。

授業科目名： イギリス文化演習I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岩田 託子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 現在発表される文学・演劇・映画などについて発表されるレビューを読解し論評できる。			
授業の概要 定評あるレビュー新聞・雑誌から多角的に記事を紹介し輪読。また自ら検索術を身につける。			
授業計画 第1回：Times Literary Supplements レビュー読解 第2回：The Guardian レビュー読解 第3回：The Times レビュー読解 第4回：同じテーマで学術誌のレビュー検索方法を身につける。 第5回：学術誌のレビュー読解① 第6回：学術誌のレビュー読解② 第7回：Times Literary Supplements レビュー読解 第8回：The Guardian レビュー読解 第9回：The Times レビュー読解 第10回：同じテーマで英字新聞のレビュー検索方法を身につける。 第11回：英字新聞のレビュー読解① 第12回：英字新聞のレビュー読解② 第13回：各人がテーマを設定しレビューを検索する 第14回：各人の選んだレビューを紹介・批評する 第15回：全体の振り返り・質疑応答			
テキスト 随時紹介。			
参考書・参考資料等 『文学批評用語辞典』研究社出版			

学生に対する評価

授業への寄与ではかる。

授業科目名： イギリス文化特論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 武井暁子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
(1)イギリス文化に関する研究を進めるうえで必要となる基礎知識を身につける。 (2)イギリス文化に対する問題意識を持つ。			
授業の概要			
世界最大級の百貨店Harrodsの創業から現在までの歴史を読み、①Harrodsの歴史 ②ヴィクトリア朝イギリス人の買い物スタイルの変化 ③Harrodsの現在を通して、イギリス文化に関する知識と理解を深める。			
授業計画			
第1回：序章			
第2回：第1章 服地店時代			
第3回：第2章 Harrods家のルーツ 前半			
第4回：第2章 Harrods家のルーツ 後半			
第5回：第3章 雑貨店時代 前半			
第6回：第3章 雑貨店時代 後半			
第7回：第4章 ナイツブリッジへ移転 前半			
第8回：第4章 ナイツブリッジへ移転 後半			
第9回：第5章 快進撃の始まり 前半			
第10回：第5章 快進撃の始まり 後半			
第11回：第6章 火災事故 前半			
第12回：第6章 火災事故 後半			
第13回：第7章 大衆化の始まり 前半			
第14回：第7章 大衆化の始まり 後半			
第15回：Harrodsの現在			
定期試験			
テキスト			
Robbin Harrod, <i>The Jewel of Knightsbridge: The Origins of the Harrods Empire</i> (2017)			

参考書・参考資料等
なし
学生に対する評価
レポート 60% 授業中の発表 40%

授業科目名： イギリス文化演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 武井暁子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
(1)イギリス文化に関する研究を進めるうえで必要となる基礎知識を身につける。 (2)イギリス文化に対する問題意識を持つ。			
授業の概要			
近代イギリスの階級制の歴史を読み、①近代イギリスの階級制が形成された18世紀から現代までの歴史 ②上流階級、中流階級、労働者階級の特長 ③現在のイギリスの階級制を通して、イギリス文化に関する知識と理解を深める。			
授業計画			
第1回：序章 階級とは何か 前半 第2回：序章 階級とは何か 中半 第3回：序章 階級とは何か 後半 第4回：第1章 18世紀 階級闘争なき階級 前半 第5回：第1章 18世紀 階級闘争なき階級 中半 第6回：第1章 18世紀 階級闘争なき階級 後半 第7回：第2章 19世紀 序列の形成 前半 第8回：第2章 19世紀 序列の形成 中半 第9回：第2章 19世紀 序列の形成 後半 第10回：第3章 20世紀 社会アイデンティティと政治アイデンティティとしての階級 前半 第11回：第3章 20世紀 社会アイデンティティと政治アイデンティティとしての階級 中半 第12回：第3章 20世紀 社会アイデンティティと政治アイデンティティとしての階級 後半 第13回：第4章 階級なき社会の可否 前半 第14回：第4章 階級なき社会の可否 中半 第15回：第4章 階級なき社会の可否 後半			
定期試験			
テキスト			
David Cannadine, <i>Class in Britain</i> (1998)			

参考書・参考資料等
なし
学生に対する評価
レポート60% 授業中の発表 40%

授業科目名： 北アメリカ文化特論 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： C.J. アームストロング
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
Narrative of the Road in North American Culture 北アメリカ文化におけるロード・ナラティヴ			
授業の概要			
This course will explore literary and film narratives of the road in Canada and the United States. We will examine the impact of the automobile on North American culture as well as discuss a variety of themes that writers and filmmakers have explored in their works, including automobility, social protest, identities of nation, race, gender and sexuality and the environment.			
カナダ及びアメリカ合衆国におけるロード・ナラティヴを主題とした文学作品及び映画について研究する。北アメリカ文化における自動車の影響について検証すると共に、作家や映画監督が扱った多様な主題について議論を行う。検討する主題は、自動車による移動性、社会的抗議、国民的アイデンティティ、人種、ジェンダーとセクシュアリティ及び環境問題に亘る。			
授業計画			
第1回：The Road in North American Culture 北アメリカ文化における路			
第2回：Modern Life, the City and Automobility 現代の生活、都市、そして移動性			
第3回：Automobility and Urban Life in Fitzgerald's <i>The Great Gatsby</i> I フィッツジェラルドの『グレート・ギャツビー』における移動性と都市生活I			
第4回：Automobility and Urban Life in Fitzgerald's <i>The Great Gatsby</i> II フィッツジェラルドの『グレート・ギャツビー』における移動性と都市生活II			
第5回：The Road and Social Protest: <i>The Grapes of Wrath</i> I 路と社会的抗議：『怒りの葡萄』I			
第6回：The Road and Social Protest: <i>The Grapes of Wrath</i> II 路と社会的抗議：『怒りの葡萄』II			
第7回：The Road and the Beat Generation I 路とビート・ジェネレーションI			
第8回：The Road and the Beat Generation II 路とビート・ジェネレーションII			

第9回 : Canadian Road Films I カナダのロード・ムービーI 第10回 : Canadian Road Films II カナダのロード・ムービーII 第11回 : Road Narratives in Canadian Literature I カナダ文学におけるロード・ナラティブI 第12回 : Road Narratives in Canadian Literature II カナダ文学におけるロード・ナラティブII 第13回 : The Road in North American Popular Music 北アメリカのポピュラーミュージックにおける路I 第14回 : Gender and Race on the Road 北アメリカのポピュラーミュージックにおける路II 第15回 : The End of the Road? Infrastructure, Energy Culture and Climate Change 旅路の果て? インフラストラクチャー、エネルギー文化、そして気候変動 定期試験 : None 筆記試験は実施しない
テキスト <i>The Great Gatsby</i>, <i>The Grapes of Wrath</i>, Other Texts and Films: TBA その他詳細は授業で指示
参考書・参考資料等 Katie Mills. <i>The Road Story and the Rebel: Moving through Film, Fiction and Television</i> (2006) Slethaug and Ford, eds. <i>Hit the Road Jack: Essays on the Culture of the American Road</i> (2012)
学生に対する評価 Class Participation: 50% 授業への参加 : 50% Presentation and research essay: 50% 授業での発表及び期末エッセイ : 50%

授業科目名： 北アメリカ文化演習 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： C. J. アームストロング
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
Studies in Canadian Literature and Film カナダ文学・映画研究			
授業の概要			
Students in this course will learn about the varied cultures of Canada through the study of literature, film and television in the 20th and 21st centuries. Students will explore Canada's multiculturalism from historical and theoretical perspectives before turning to media representations of Canada in film and literature. We will study works by Canadian writers and filmmakers from English and French Canada as well as representatives from minority communities.			
20 世紀から 21 世紀の文学、映画及びテレビ番組を通じて、カナダ文化の多様性を学修する。まず歴史的及び理論的観点からカナダの多文化主義について探求し、その後映画や文学作品といったメディアにおけるカナダ表象について検討する。英語圏及びフランス語圏のカナダ作家及び映画監督、及びカナダの少数民族のコミュニティによる作品群について研究を行う。			
授業計画			
第1回：Introduction: Understanding Canada's Diversity イン트로ダクション：カナダの多様性			
第2回：Indigenous-European Relations カナダ先住民とヨーロッパの人々との関係			
第3回：Indigenous People in Canada カナダの先住民			
第4回：French-English Relations カナダにおけるフランス語圏と英語圏との関係			
第5回：Quebec Nationalism ケベックのナショナリズム			
第6回：Acadian Nationalism アカディア地域のナショナリズム			
第7回：English-Canadian Nationalism 英語圏カナダ人のナショナリズム			
第8回：Regionalism in Canada カナダの地方主義			
第9回：Contemporary Film in Quebec I ケベックの現代映画I			
第10回：Contemporary Film in Quebec II ケベックの現代映画II			

第11回：Immigration and Minority Communities in Canada カナダにおける移民と少数民族のコミュニティ

第12回：Multicultural Film in English Canada 英語圏カナダの多文化主義映画

第13回：English-Canadian Multicultural Fictions 英語圏カナダの多文化主義小説

第14回：Contemporary Short Fiction in English Canada 英語圏カナダの現代短編小説

第15回：Film Adaptations of English-Canadian Literature 英語圏カナダ文学索引の映画化

定期試験：None 筆記試験は実施しない

テキスト

Faye Hammill. *Canadian Literature* (2007)

Jim Leach. *Film in Canada* (2nd edition, 2010)

参考書・参考資料等

Sourayan Mookerjee et al. *Canadian Cultural Studies: A Reader* (2009)

学生に対する評価

Class Preparation: 50% 授業への参加：50%

Presentation and research essay: 50% 授業での発表及び期末エッセイ：50%

授業科目名： 北アメリカ文化特論II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 千葉洋平
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
文学・文化領域の解釈・分析方法を学び、それらを応用して自らの解釈を組み立てることができるようになる。また文化政策に関わる高度な情報を要約し整理できる思考力を体得することができる。			
授業の概要			
「北アメリカ文化特論B」は、授業形態を講義（一部演習を含む）とする。現代の北アメリカ文化における諸問題を社会的・歴史的な視点から深く理解することで、その文化圏で生み出された表現や作品、そして文化政策を多角的に解釈及び判断する能力を体得することを目標とする。実際に文化解釈における複数の目的と方法を提示し、現代において関心を集めている社会問題を取り上げ、その問題における文化的側面と文化と他の領域との関連性を考察し、北アメリカ文化の構造とグローバル化における文化変容の力学を教授する。			
授業計画			
第1回：メディアと文化の関係性について			
第2回：メディア産業について			
第3回：記号論を通じたイメージ分析			
第4回：物語分析			
第5回：レトリック分析			
第6回：精神分析とフェミニズム分析			
第7回：社会構築論について			
第8回：読者中心論とオーディエンス分析			
第9回：文化における表象と相互作用			
第10回：第二次世界大戦期の文化政策			
第11回：冷戦期の文化政策			
第12回：リテラシー教育について			
第13回：エコロジー分析			

第14回：物質性とメディア性について

第15回：文化批評について

定期試験

テキスト

Reading Images (Gunther Kress and Theo van Leeuwen, Routledge)

Critical Media Studies (Brian L. Ott and Robert L. Mack)

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

レポート試験（60%） リーディング課題(40%)

授業科目名： 北アメリカ文化演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 千葉洋平
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
言語やイメージを運ぶメディアやジャンルの特徴を理解しつつ、複数の観点から芸術作品や社会的な出来事を考察することで、アメリカ合衆国の文化政策について新たな発見をし、それを説明することができる。			
授業の概要			
「北アメリカ文化演習B」は、授業形態を演習とする。20世紀から現代までのアメリカ合衆国が行ってきた文化政策に焦点を絞り、その政策の意図や効果を分析した上で、履修者が多様な解釈方法を体得し、自らの考えを発信できる能力を養成する。実際の作品や言説を解釈していく作業を通して、新聞、ラジオ、テレビ、国際イベント、インターネットといった様々なメディアの特性を分析しつつ、ジャンルと文化政策のつながりを比較・考察することで文化を批判的に捉えていく。またライティングによって複数の考えを組織立て自らの解釈を提示できる能力を育成する。			
授業計画			
第1回：メディアの歴史			
第2回：メディアという視点の誕生			
第3回：自由、個人主義、モダニズム			
第4回：絵画と文化政策			
第5回：抽象絵画と絵画批評			
第6回：ジャーナリズムと情報操作について			
第7回：1950年代におけるAmerican Book Programs			
第8回：文芸雑誌とアメリカ文化の流通			
第9回：The Voice of Americaからみるラジオ番組の特徴			
第10回：アメリカ文学史・文化史の歴史			
第11回：経済協力と文化政策について			
第12回：ポストモダニズムと建築			

第13回：ハリウッド映画とテレビ番組

第14回：インターネット時代の文化政策

第15回：検閲と民主主義について

テキスト

Cold War Modernist (Greg Barnhisel, Columbia University Press)

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

レポート試験 (50%) ライティング課題 (50%)

授業科目名： 批評理論特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 川村亜樹
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
文学理論入門——文学や映画などに関するアカデミックな研究をおこなううえで必要な、専門用語、概念への理解を深めることができる。			
授業の概要			
毎回、英文で執筆された本文を、受講生が解説し、教員が補足していくかたちで授業をすすめる。			
授業計画			
第1回：ミメシス			
第2回：曖昧性			
第3回：ナラティヴ／ストーリー			
第4回：叙事詩			
第5回：ゴシック			
第6回：文化			
第7回：下部構造／上部構造			
第8回：正典			
第9回：ジャンル			
第10回：アレゴリー			
第11回：メタフィクション			
第12回：構造主義			
第13回：脱構築			
第14回：新歴史主義			
第15回：性の政治学			
テキスト			
John Sutherland 他 『Literature Ideas You Really Need to Know: From “Mimesis” to “Sexual Politics”／文学概念入門：〈ミメシス〉から〈セクシュアル・ポリティクス〉まで』 松柏社、2021年、ISBN: 978-4-88198-769-8、2,000円+税			

参考書・参考資料等

テキストで言及されている作品

学生に対する評価

各回の授業での受講生による発表（英語解説文の理解度） 100%

定期試験は実施しない

授業科目名： 批評理論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 川村亜樹
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
2010年代ハリウッド映画に関する研究書講読——映画の作品論が読めるようになる。			
授業の概要			
ヒーローアクション、ホラー、アニメ、伝記、時代劇、SF、コメディなど多様なジャンルの作品のなかで前景化されたジェンダーや人種関係に着目し、2010年代後半のハリウッド映画を1年ごとにトレンド分析した研究書を読む。2015～2019年の章について、1章を3回で読了する予定である。テキストで取り上げられている個別の作品については、授業の事前準備として、受講生各自で視聴してきることとする。			
授業計画			
第1回：2015 Movies and Female Agency (1) “Mad Max: Fury Road”			
第2回：2015 Movies and Female Agency (2) “Crimson Peak”			
第3回：2015 Movies and Female Agency (3) “Inside Out”			
第4回：2016 Movies and the Solace of Progressive Narratives (1) “Hidden Figures”			
第5回：2016 Movies and the Solace of Progressive Narratives (2) “The Magnificent Seven”			
第6回：2016 Movies and the Solace of Progressive Narratives (3) “Moonlight” “Fences”			
第7回：2017 Movies and the Right to Be Heard (1) “Get Out”			
第8回：2017 Movies and the Right to Be Heard (2) “Three Billboards outside Ebbing, Missouri”			
第9回：2017 Movies and the Right to Be Heard (3) “The Florida Project”			
第10回：2018 Movies and Revolution (1) “Black Panther”			
第11回：2018 Movies and Revolution (2) “Hereditary”			
第12回：2018 Movies and Revolution (3) “Annihilation”			
第13回：2019 Movies, Anniversaries, and the Limits of Looking Back (1) “Once Upon a Time ... in Hollywood”			
第14回：2019 Movies, Anniversaries, and the Limits of Looking Back (2) “Us”			
第15回：2019 Movies, Anniversaries, and the Limits of Looking Back (3) “Parasite”			

テキスト

Dennis, Bingham, editor. American Cinema of the 2010s. Rutgers University Press. 2021.

ISBN: 9781978814820

参考書・参考資料等

テキストで言及されている映画作品

学生に対する評価

各回の授業での受講生による発表（英語本文の理解度） 100%

定期試験は実施しない

授業科目名： 表象文化特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森 有礼
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
現代の英語圏文化の多様な特徴について、特に二十世紀以降の表象文化である映像メディアに 焦点を当てて学修する。本科目の履修者は、英語圏の映像メディアについての包括的な知識を 修得し、それらに関する歴史的推移及び地域的・ジャンルの固有性とそれらの多様性について 広範な理解に到ることを目標とする。			
授業の概要			
本科目は基本的に担当教員による講義形式で進められる。受講生は毎回の授業に出席し、その 主題と詳細について学修し、それらについての理解を深める。但し、適宜授業の理解度を確認 するため、履修生は課題についてのプレゼンテーションと、履修者相互による討論を行うもの とする。			
授業計画			
第1回：表象文化特論導入：映像の世紀の到来と映画の独自性			
第2回：映画の技法分析1：構図とカメラワーク			
第3回：映画の技法分析1：編集と構成			
第4回：映画の技法分析1：アートディレクション			
第5回：映画の技法分析1：語りと視点			
第6回：映画の技法分析1：メタファーとモチーフ			
第7回：映画の技法分析1：スタイル：リアリズムと表現主義			
第8回：中間プレゼンテーション：映画の技法分析実践			
第9回： 映画批評1：歴史的批評			
第10回：映画批評1：構造主義的批評			
第11回：映画批評1：精神分析批評			
第12回：映画批評1：イデオロギー批評			
第13回：映画批評1：ジェンダー批評			
第14回：映画批評1：ポスト構造主義批評			
第15回：期末プレゼンテーション：批評理論による映画分析実践			
定期試験			

テキスト

授業中に適宜資料を配布する

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する

学生に対する評価

中間・期末のプレゼンテーション(各30%)、期末レポート(40%)

授業科目名： 表象文化演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森 有礼
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
現代の英語圏文化の多様な特徴について、特に二十世紀以降の表象文化である映像メディアに 焦点を当てて学修する。本科目の履修者は、英語圏の映像メディアについての包括的な知識を 元に、それらに関する歴史的推移及び地域的・ジャンルの固有性とそれらの多様性について独 自の観点から個人の研究課題を選定し、それについての研究発表を行うことを目標とする。			
授業の概要			
本科目は基本的に担当教員の指導による演習形式で進められる。受講生は毎回の授業の主題と 詳細について学修し、それらについての理解を深めると共に、各授業の研究課題ごとにそれ についてのリサーチ・プレゼンテーションと、受講生相互による討論を行うものとする。			
授業計画			
第1回：表象文化演習導入：映画・映像分析の実際とそのバリエーション			
第2回：サイレント映画と表現主義			
第3回：トーキーと娯楽映画の誕生			
第4回：ハリウッド映画の発展			
第5回：ヘイズ・コード以降			
第6回：フィルム・ノワール			
第7回：アメリカン・ロードムービー			
第8回：戦争映画とドキュメンタリー映画			
第9回：SF映画の発展			
第10回：ファンタジー映画のバリエーション			
第11回：パニック映画の系譜			
第12回：ホラー映画とミステリー			
第13回：スラップ・スティックとシットコム			
第14回：アニメーションの歴史			
第15回：期末プレゼンテーション：映画批評実践			
定期試験			

テキスト

授業中に適宜資料を配布する

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する

学生に対する評価

期末のプレゼンテーション(60%)、期末レポート(40%)

授業科目名： 英語科教育課程特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 仲 潔
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
英語科教育課程の全体像を捉えることを目的に、英語教育の基本的な理念から評価論に至るまで広く扱う。具体的には、①英語教育におけるカリキュラム・デザインの理論と現状の課題、②学習指導要領・検定教科書の検討に基づく教材・教具・授業案の構成法を教授する。			
授業の概要			
2019年度より英語教員養成・研修のコア・カリキュラムに「国際共通語としての英語」という英語教育理念が取り入れられた。本講義では、いわゆる「国際英語論」の基礎的な知識から近年の研究成果まで幅広く扱う。その上で、英語科教育においてどのように取り入れ、個々の授業実践・評価のあり方に結びつけていくのかを考察していく。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（言語文化に関する基本的な認識調査）			
第2回：受講者の言語文化観の考察（第1回授業時の調査にもとづく）			
第3回：「国際共通語としての英語」の社会的意義について考える			
第4回：「言語」の多様性と「言語の機能」の多様性について考える			
第5回：「世界に広がる英語」について考える			
第6回：アクセントと言語観について考える			
第7回：英語の多様性と共通性について考える			
第8回：中間振り返り			
第9回：「円滑なコミュニケーション」について考える			
第10回：グローバル社会における「コミュニケーション」について考える			
第11回：言語コミュニケーション力の「評価」について考える			
第12回：「国際共通語としての英語」の指導について考える			
第13回：“Plain English”と「伝わる英語」について考える			
第14回：学習指導要領における言語観について考える			
第15回：英語教科書における言語観について考える			
定期試験は実施しない。			

テキスト

『英語教育のための国際英語論』、大修館書店

参考書・参考資料等

『これからの英語教育の話をしよう』、ひつじ書房

『日本の言語教育を問い直す』、三省堂

学生に対する評価

授業貢献度（議論への参加、30%）、文献輪読発表（30%）、最終レポート（40%）

授業科目名： 英語科教授学演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 亘理 陽一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
(1) 外国語の教授・学習に関する英語文献の購読を通じて、英語教育の理論的知識を深め、修士論文研究・執筆の基礎とする。			
(2) アセスメントの理論・手法を学び、複数の単元レベルまで含めた、授業評価・省察力を身につける。			
(3) 英語教師として必要な英語運用能力をさらに高める。			
授業の概要			
(1) 文献を通じて外国語の指導・学習にかかわる諸要因を整理し、英語教育の理論と現状の課題を吟味する。			
(2) 学習指導要領・検定教科書の検討、授業観察・分析をもとに教材・教具・授業案の構成について考察し、単元レベルの授業計画を計画・立案する			
(3) 自他の英語指導技術の現状と課題を実践的視点から吟味する。			
授業計画			
第1回：言語教授法の概観			
第2回：学習者中心の教授法の諸課題			
第3回：リスニング指導とそのアセスメント実践			
第4回：スピーキング指導とそのアセスメント実践			
第5回：インタラクション指導とそのアセスメント実践			
第6回：リーディング指導とそのアセスメント実践			
第7回：ライティング指導とそのアセスメント実践			
第8回：技能統合型の言語活動の運営とそのアセスメント実践			
第9回：発音指導とそのアセスメント実践			
第10回：文字指導とそのアセスメント実践			
第11回：語彙指導とそのアセスメント実践			
第12回：文法指導とそのアセスメント実践			
第13回：談話構成面の指導とそのアセスメント実践			
第14回：学習スタイルと学習方略に応じた指導の諸課題			
第15回：横断的アセスメントと縦断的アセスメント			

テキスト
Nunan, D. (2015). <i>Teaching English to speakers of other languages: An introduction</i> . New York, NY: Routledge.
Green (2020). <i>Exploring language assessment and testing: Language in action</i> (2nd Ed.). New York, NY: Routledge.
参考書・参考資料等
中学校・高等学校検定教科書、および学習指導要領
学生に対する評価
予習サマリーと復習レポートの提出(40%)、授業中の議論への参加・貢献(30%)、最終レポート(30%)の総合で評価

授業科目名： 英語科教育インターンシ ップ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 亘理 陽一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
単元レベルでの教育内容・教材構成を理論的・実践的に学び、単元構想力・授業展開力を深化させることを目標とする。週に一度、インターンとして実習校の教員・生徒と関わり、観察・実践した授業について実習校教員・大学教員と定期カンファレンスを持つことで、①自他の指導技術の現状と課題を実践的視点から吟味し、外国語の指導・学習にかかわる諸要因と課題を整理する。②学習者の実態に応じた授業づくりができるよう、英語教師として必要な言語運用能力をさらに高め、指導技術の奥行きを身につける。			
授業の概要			
(1) インターン先での継続的な授業観察や生徒との交流経験と、インターン先教員と授業担当者との3者によるカンファレンスを通じて、生徒の具体的なあらわれに即して実践的諸課題を検討・解決する。			
(2) 授業実践と省察のサイクルの蓄積を通じて、学習者の実態に応じた授業づくりのために自身に必要な言語運用能力や指導技術を吟味する。			
(3) 英語科を中心とする様々なキャリア段階の教員との関わりを通じて、教職の成長モデルやキャリアパスを具体的に描き、個人レベル、教科・学年レベル、学校レベルの授業改善について知見を深める。			
授業計画			
第1回：英語教師のさまざまな営み			
第2回：英語教師は今どのような時代にいるのか			
第3回：インターン実施校の現状と課題の把握			
第4回：リアリスティック・アプローチと省察の促進			
第5回：教師の専門家としての学び			
第6回：省察を促す具体的な道具と技法			
第7回：言語教師教育教育の運用原理			
第8回：授業カンファレンスと「知ること」			
第9回：授業カンファレンスと「分析すること」			
第10回：授業カンファレンスと「認識すること」			

第11回：授業カンファレンスと「為すこと」

第12回：授業カンファレンスと「見ること」

第13回：モデルとモジュール

第14回：ALACTによるインターン実施校の授業改善の展望

第15回：セルフスタディ実践

テキスト

(1) 柳瀬陽介・組田幸一郎・奥住桂(編)(2014).『英語教師は楽しい：迷い始めたあなたのための教師の語り』ひつじ書房.

(2) F. コルトハーヘン(武田信子・今泉友里・鈴木悠太・山辺恵理子(訳))(2010).『教師教育：理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ』学文社.

(3) B・クマラヴァディヴェル(南浦 涼介・瀬尾 匡輝・田嶋 美砂子(訳))(2022).『言語教師教育論：境界なき時代の「知る・分析する・認識する・為す・見る」教師』春風社.

参考書・参考資料等

中学校・高等学校検定教科書、および学習指導要領

学生に対する評価

インターン先での授業実践(50%)、授業観察・カンファレンス(20%)、レポートの提出(30%)の総合で評価

授業科目名： 歴史文化研究基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 播磨 良紀
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
歴史文化学を学ぶうえでの基礎内容。歴史学の現代的意義を考えることができるようになる。			
授業の概要			
歴史文化研究での基礎となる歴史理論や史学史・文化史・環境史・地方史などを講義する。 特に現代と歴史学の結びつきの強い、自治体史や博物館などの地域と研究の結びつきを学ぶ。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：歴史文化学とは			
第3回：歴史学における時代区分について			
第4回：日本史学史①～戦前の歴史学研究～			
第5回：日本史学史②～戦後歴史学のあゆみ～			
第6回：日本史学史③～戦後歴史学の論争～			
第7回：日本史学史④～社会史と新たな歴史学への模索～			
第8回：文化と歴史①～生活文化研究の意義～			
第9回：文化と歴史②～宗教と民衆～			
第10回：環境と歴史①～前近代の環境歴史学～			
第11回：環境と歴史②～近代の環境歴史学～			
第12回：地方史・地域史研究の意義と課題			
第13回：自治体史編纂の成果と課題			
第14回：博物館と歴史文化			
第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト			
なし			

参考書・参考資料等
永原慶二『新装版 歴史学叙説』（東京大学出版会） 深谷克己『状況と歴史学』（校倉書房） 佐々木潤之介・石井進編『新編日本史研究入門』（東京大学出版会）、他
学生に対する評価
学期末のレポートと講義内での報告

授業科目名： 歴史文化特殊研究	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 播磨 良紀
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 歴史文化研究と史料論。歴史史料の特性を理解し、研究で扱う能力を高める			
授業の概要 歴史研究の基礎となる史料研究。史料の特性、古文書学、史料調査法などを扱う。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：歴史学における史料について 第3回：文献史料とその他の史料 第4回：絵画史料の可能性 第5回：歴史研究と古文書学①～古文書学のもつ意義～ 第6回：歴史研究と古文書学②～織豊期研究における古文書の様式を例として～ 第7回：史料読解能力の向上にむけて 第8回：史料調査と史料保存 第9回：古文書調査と整理 第10回：古文書整理の実践 第11回：史料の特性①古代史料 第12回：史料の特性②中世史料 第13回：史料の特性③近世史料 第14回：史料の特性④近代史料 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 特になし			

参考書・参考資料等

佐藤進一『新版 古文書学入門』（法政大学出版会）・児玉幸多編『古文書調査ハンドブック』（吉川弘文館）など

学生に対する評価 学期末レポートと講義内での報告

授業科目名： 日本古代史特論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 溝口優樹
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ：日本古代の氏族 到達目標：日本の古代氏族に関する史料批判の方法を身につけることができる。 日本古代における氏族について、史料に即して説明することができる。			
授業の概要 授業形態を講義（一部演習を含む）とする。日本古代の氏族に関する論点として、①クランやリニージなど氏族をめぐる諸概念、②氏族系譜や伝承の形成過程、③渡来系氏族の特徴、④律令制下における官僚制と氏族の関係、⑤『新撰姓氏録』の編纂をめぐる背景と意義、⑥平安時代における新氏族の成立と展開といった問題をとりあげ、考えていく。			
授業計画 第1回：氏族をめぐる諸概念 第2回：氏族の系譜・伝承を読む 第3回：氏族系譜の形成過程 第4回：氏族伝承の形成過程 第5回：渡来人をめぐる諸概念 第6回：渡来系氏族の系譜・伝承を読む 第7回：渡来系氏族の特徴 第8回：律令官僚制と負名氏 第9回：奈良・平安期における改姓 第10回：『新撰姓氏録』編纂の背景 第11回：『新撰姓氏録』の性格 第12回：氏文を読む 第13回：氏文の成立と特徴 第14回：平安時代における氏族の動向 第15回：氏と家			
テキスト 授業時に適宜資料を配付する。			

参考書・参考資料等
佐藤信編『古代史講義【氏族篇】』（筑摩書房、2021年）
篠川賢編『日本古代の氏と系譜』（雄山閣、2019年）
学生に対する評価
レポート（70％）、毎回の授業における取り組み（30％）

授業科目名： 日本古代史特論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 溝口優樹
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ：日本古代の地域社会 到達目標：日本古代の地域社会に関する史料批判の方法を身につけることができる。 日本古代における地域社会について、史料に即して説明することができる。			
授業の概要 授業形態を講義（一部演習を含む）とする。日本古代の地域社会に関する論点として、①国家形成史をめぐる理論的枠組み、②国造制、部民制、ミヤケ制といった倭王権の地方支配制度、③国郡制を中心とした律令制下の地方支配制度、④仏教信仰によって結ばれた集団である知識、⑤富豪層の台頭や受領制・擬任郡司制の登場といった平安時代における地方支配制度の変質といった問題をとりあげ、考えていく。			
授業計画 第1回：首長制社会論 第2回：初期国家論 第3回：国造制関係史料を読む 第4回：部民制関係史料を読む 第5回：ミヤケ制関係史料を読む 第6回：国造制・部民制・ミヤケ制の実体と連関 第7回：評制関係史料を読む 第8回：評制の性格 第9回：国郡制関係史料を読む 第10回：国郡制の性格 第11回：知識関係史料を読む 第12回：知識と地域社会 第13回：平安時代の富豪層 第14回：擬任郡司制 第15回：受領制			

テキスト

授業時に適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

篠川賢・大川原竜一・鈴木正信編著『国造制の研究―史料編・論考編―』（八木書店、2013 年）

篠川賢・大川原竜一・鈴木正信編著『国造制・部民制の研究』（八木書店、2017 年）

学生に対する評価

レポート（70％）、毎回の授業における取り組み（30％）

授業科目名： 日本中世史特論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小池勝也
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 中世前期（院政・鎌倉期）の最新の研究状況を把握			
授業の概要 『岩波講座 日本歴史』中世１・中世２の輪読			
授業計画 第１回：ガイダンス 授業全体の概要について講義 第２回：中世史への招待 教員による報告 第３回：論文輪読① 『日本歴史 中世１』の中から報告者が選んだ論文を輪読 第４回：論文輪読② 『日本歴史 中世１』の中から報告者が選んだ論文を輪読 第５回：論文輪読③ 『日本歴史 中世１』の中から報告者が選んだ論文を輪読 第６回：論文輪読④ 『日本歴史 中世１』の中から報告者が選んだ論文を輪読 第７回：論文輪読⑤ 『日本歴史 中世１』の中から報告者が選んだ論文を輪読 第８回：論文輪読⑥ 『日本歴史 中世１』の中から報告者が選んだ論文を輪読 第９回：論文輪読⑦ 『日本歴史 中世２』の中から報告者が選んだ論文を輪読 第１０回：論文輪読⑧ 『日本歴史 中世２』の中から報告者が選んだ論文を輪読 第１１回：論文輪読⑨ 『日本歴史 中世２』の中から報告者が選んだ論文を輪読 第１２回：論文輪読⑩ 『日本歴史 中世２』の中から報告者が選んだ論文を輪読 第１３回：論文輪読⑪ 『日本歴史 中世２』の中から報告者が選んだ論文を輪読 第１４回：論文輪読⑫ 『日本歴史 中世２』の中から報告者が選んだ論文を輪読 第１５回：授業のまとめ教員による総括			
テキスト 『岩波講座 日本歴史 中世１』（岩波書店、2013年） 『岩波講座 日本歴史 中世２』（岩波書店、2014年）			

参考書・参考資料等
『岩波講座 日本歴史 中世3』（岩波書店、2014年）
『岩波講座 日本歴史 中世4』（岩波書店、2015年）
学生に対する評価
ゼミでの報告内容 70% 議論の際の発言内容 30%

授業科目名： 日本中世史特論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小池勝也
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 中世後期（南北朝・室町・戦国期）の最新の研究状況を把握			
授業の概要 『岩波講座 日本歴史』中世3・中世4の輪読			
授業計画 第1回：ガイダンス 授業全体の概要について講義 第2回：中世史への招待 教員による報告 第3回：論文輪読① 『日本歴史 中世3』の中から報告者が選んだ論文を輪読 第4回：論文輪読② 『日本歴史 中世3』の中から報告者が選んだ論文を輪読 第5回：論文輪読③ 『日本歴史 中世3』の中から報告者が選んだ論文を輪読 第6回：論文輪読④ 『日本歴史 中世3』の中から報告者が選んだ論文を輪読 第7回：論文輪読⑤ 『日本歴史 中世3』の中から報告者が選んだ論文を輪読 第8回：論文輪読⑥ 『日本歴史 中世3』の中から報告者が選んだ論文を輪読 第9回：論文輪読⑦ 『日本歴史 中世4』の中から報告者が選んだ論文を輪読 第10回：論文輪読⑧ 『日本歴史 中世4』の中から報告者が選んだ論文を輪読 第11回：論文輪読⑨ 『日本歴史 中世4』の中から報告者が選んだ論文を輪読 第12回：論文輪読⑩ 『日本歴史 中世4』の中から報告者が選んだ論文を輪読 第13回：論文輪読⑪ 『日本歴史 中世4』の中から報告者が選んだ論文を輪読 第14回：論文輪読⑫ 『日本歴史 中世4』の中から報告者が選んだ論文を輪読 第15回：授業のまとめ教員による総括			
テキスト 『岩波講座 日本歴史 中世3』（岩波書店、2014年） 『岩波講座 日本歴史 中世4』（岩波書店、2015年）			

参考書・参考資料等
『岩波講座 日本歴史 中世 1』(岩波書店、2013年)
『岩波講座 日本歴史 中世2』(岩波書店、2014年)
学生に対する評価
ゼミでの報告内容 70% 議論の際の発言内容 30%

授業科目名： 戦国・織豊期特論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 馬部 隆弘
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 論文の輪読を通じて、戦国期の研究史を把握する。			
授業の概要 報告者が論文の内容を整理し、履修者全員で質疑を重ねて論文の内容について理解を深める。			
授業計画 第1回：ガイダンス 授業の概要について 第2回：畿内近国の政治史① 室町幕府について 第3回：畿内近国の政治史① 細川氏について 第4回：畿内近国の政治史② 畠山氏について 第5回：畿内近国の政治史③ 六角氏について 第6回：畿内近国の政治史④ 三好氏について 第7回：西国の政治史① 大内氏について 第8回：西国の政治史② 毛利氏について 第9回：東国の政治史① 北条氏について 第10回：東国の政治史② 武田氏について 第11回：東国の政治史③ 今川氏について 第12回：東国の政治史④ 上杉氏について 第13回：経済史 戦国期の経済史について 第14回：文化史 戦国期の文化史について 第15回：宗教史 戦国期の宗教史について			
テキスト 適宜、輪読論文を配付する。			
参考書・参考資料等 なし			

学生に対する評価

平常点（60％）、発表（40％）

授業科目名： 戦国・織豊期特論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 馬部 隆弘
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 論文の輪読を通じて、織豊期の研究史を把握する。			
授業の概要 報告者が論文の内容を整理し、履修者全員で質疑を重ねて論文の内容について理解を深める。			
授業計画 第1回：ガイダンス 授業の概要について 第2回：戦国期の織田氏 信長以前の織田氏について 第3回：尾張時代の織田信長 信長の尾張統一に至る経過について 第4回：室町幕府と織田信長 信長と足利義昭の関係について 第5回：朝廷と織田信長 信長と朝廷の関係について 第6回：織田信長の城下町政策 信長による城下町の変遷について 第7回：織田信長の経済政策 信長の楽市・楽座政策について 第8回：織田信長の宗教政策 信長の一向一揆対策について 第9回：織田信長の文書論 信長の文書様式について 第10回：本能寺の変 本能寺の変に関する議論について 第11回：織豊系城郭 織豊期の城郭構造について 第12回：太閤検地論 太閤検地論争について 第13回：豊臣政権の構造 豊臣政権の権力構造について 第14回：文禄・慶長の役 文禄・慶長の役が豊臣政権に与えた影響について 第15回：関ヶ原の戦い 関ヶ原の戦いに関する研究の現状について			
テキスト 適宜、輪読論文を配付する。			
参考書・参考資料等 なし			

学生に対する評価

平常点（60％）、発表（40％）

授業科目名： 日本近世史特論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 白根孝胤
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：幕藩制国家の構造と特質			
到達目標			
・日本の歴史文化の変遷について、正確に理解し、説明することができる。 ・日本近世政治史に関する最新の歴史学の成果に基づいて正確に理解し、説明することができる。 ・史料の読解力を深め、正確な歴史的思考に基づく史実を追究することができる。			
授業の概要			
幕藩制国家の構造と特質について、幕政史・藩政史に関する最新研究の多様な分析視角を正確に把握できるように留意しながら、政治過程や諸政策の推移、それが及ぼした地域への影響をふまえて明らかにする。2世紀半余りの長期にわたって平和な時代を築いた江戸幕府の動向と各地域を領有していた大名・旗本、および領民との連動性に着目し、当時の書状や日記など様々な古文書の分析を踏まえつつ、講義とともに受講生の報告、議論を通じて検討していく。			
授業計画			
第1回：日本近世政治史研究の方法 日本近世(江戸時代)政治史の分析視角と課題、研究倫理について			
第2回：江戸時代像の変遷（1）幕藩制構造論と封建社会			
第3回：江戸時代像の変遷（2）幕藩制国家論・幕藩関係論の研究とその意義			
第4回：江戸時代像の変遷（3）地域社会からみた江戸時代			
第5回：江戸幕府の政治構造と幕政（1）徳川公儀の成立と豊臣勢力			
第6回：江戸幕府の政治構造と幕政（2）老中制の確立と側用人政治			
第7回：江戸幕府の政治構造と幕政（3）享保期～宝暦期における国家政策・公共政策の展開と特質			
第8回：江戸幕府の政治構造と幕政（4）寛政期～天保期の改革政治と社会情勢			
第9回：藩体制の成立と藩政の展開（1）一門・譜代・国持大名にみる藩体制成立の諸様相			
第10回：藩体制の成立と藩政の展開（2）藩体制の政治構造とその特質			
第11回：藩体制の成立と藩政の展開（3）領国支配の様相と地方知行制			

第12回：幕末維新期の幕府と大名（1） 開国前後の政治情勢と幕藩関係

第13回：幕末維新期の幕府と大名（2） 尊王攘夷をめぐる朝幕関係と諸大名

第14回：幕末維新期の幕府と大名（3） 戊辰戦争前後の政治・社会情勢と諸大名の動向

第15回：まとめ 近世政治史と幕藩関係

テキスト

各回のテーマごとに適宜プリントを配布する。

参考書・参考資料等

藤野保『近世国家史の研究』（吉川弘文館、2002年）

佐々木潤之介『江戸時代論』（吉川弘文館、2005年）

大石学編『江戸時代への接近』（東京堂出版、2000年）

学生に対する評価

毎回の研究報告(70%)、レポート(30%)

授業科目名： 日本近世史特論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 白根孝胤
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：幕藩制社会の秩序と文化			
到達目標：			
・日本の歴史文化の変遷について、正確に理解し、説明することができる。 ・近世社会史・文化史に関する最新の歴史学の成果に基づいて正しく理解し、説明することができる。 ・史料の読解力を深め、正確な歴史的思考に基づく史実を追究することができる。			
授業の概要			
幕藩制社会の秩序と文化をテーマに、とくに武家の格式や儀礼社会の在り方、および領民による地域文化の特質について明らかにしていく。江戸時代に萌芽、発展した多様な文化は現代においても継承されていることに留意しながら、日本文化に対する関心を高めていく。授業では最新の研究に基づき、現存している様々な古文書や絵画史料・写真史料の分析を踏まえつつ、講義とともに受講生との議論を通じて理解を深めていく。			
授業計画			
第1回：日本近世社会史・文化史研究の方法 日本近世(江戸時代) 社会史・文化史の分析視角と課題研究倫理について			
第2回：近世武家社会の秩序と家格（1） 近世大名の格式の成立過程と歴史的意義			
第3回：近世武家社会の秩序と家格（2） 諸大名の家格形成と殿席・詰席			
第4回：近世武家官位制の成立と展開（1） 武家（将軍・大名）の官位と朝廷との関係			
第5回：近世武家官位制の成立と展開（2） 官位昇進運動の展開と幕藩関係			
第6回：献上儀礼と社会秩序（1） 時献上をめぐる諸大名の動向と将軍家との関係			
第7回：献上儀礼と社会秩序（2） 国産品献上をめぐる農村社会の意識			
第8回：将軍権威と儀礼社会（1） 江戸城「表向」における献上儀礼と諸大名・公家			
第9回：将軍権威と儀礼社会（2） 江戸城「奥」「大奥」の構造と贈答儀礼の様相			
第10回：近世城郭・御殿における儀礼社会（1） 名古屋城における殿中儀礼の展開と意義			

第11回：近世城郭・御殿における儀礼社会（2） 殿中儀礼をめぐる諸大名・旗本・領民との関係

第12回：江戸文化の萌芽と発展（1） 地域文化と都市文化、その相互関係を探る

第13回：江戸文化の萌芽と発展（2） 絵画史料から読み解く江戸文化

第14回：江戸文化の萌芽と発展（3） 写真史料の分析にみる江戸文化

第15回：まとめ 幕藩制社会の秩序と文化

テキスト

各回のテーマごとに適宜プリントを配布する。

参考書・参考資料等

橋本政宣編『近世武家官位の研究』（八木書店、1999年）

二木謙一『武家儀礼格式の研究』（吉川弘文館、2003年）

深井雅海『江戸城』（中央公論新社、2008年）

竹内誠編『江戸文化の見方』（角川選書、2010年）

学生に対する評価

毎回の研究報告(70%)、レポート(30%)

授業科目名： 日本近現代史特論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中元崇智
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標（近代日本における立憲国家の成立と展開） 本講義では、明治維新から1920年代までの日本政治史の過程や政策の推移、それと関連する官僚や政党・軍部などについて詳しい知識を得るとともに、近現代史の意義や特異性に関する理解を深める。その際に、以下のような点を到達目標とする。①先行研究を読み込み、特に研究史上の画期をなした研究については、その発想や問題設定、根拠とした史料の実証性、論理展開の合理性など、多面的検証をおこなう力を身につける。②近代に成立した「立憲国家」とは何か、その淵源と内実に迫り、他者に説明できるようになる。③講義の中で紹介した史料を自ら読解することで、史料読解能力・分析力を修得する。			
授業の概要 本講義では、明治維新から1920年代までの日本政治史において、最新の研究に基づき、当該期の政治過程や政策の推移、それと関連する官僚や政党・軍部などについて詳しく知識を得るとともに、日本史上における近現代史の意義や特異性に関する理解を深める。なお、中央における政権の動向が地方に及ぼした影響、逆に地方政治を取り扱う場合には地方の情勢と中央政局との関係に留意するものとする。			
授業計画 第1回：立憲政治とは何か 立憲政治の意味について、歴史学の視点から考える 第2回：幕末の政治情勢と明治初年の公議輿論 明治初年における土佐藩の藩政改革と「四民平均の理」 第3回：明治政府内の「立憲政治論」（1） 木戸孝允・大久保利通・伊藤博文らの政治構想 第4回：明治政府内の「立憲政治論」（2） 明治六年の政変をめぐる政府の分裂と「民選議院設立建白書」 第5回：立志社の設立と私擬憲法 民権結社の実態と参加者・組織・私擬憲法 第6回：大日本帝国憲法制定への道 明治政府内の憲法構想と明治十四年の政変 第7回：自由党・立憲改進黨の結成とその展開 自由党・立憲改進黨の組織・実態・機関紙 第8回：三大事件建白運動と大同団結運動 明治20年の板垣退助辞爵事件と天皇観をめぐる相克 第9回：大日本帝国憲法の発布 伊藤博文・黒田清隆・金子堅太郎の憲法観と超然主義の実相 第10回：初期議会期における明治政府と自由党 自由党総理板垣退助の政党指導とその展開			

第11回：東アジア情勢の変容と日清戦後経営 日清戦後経営をめぐる明治政府と政党勢力の対立と妥協

第12回：日露戦後経営と桂園時代 藩閥・官僚勢力の動向と立憲政友会の成立

第13回：大正デモクラシーと立憲政治論の展開 大正政変と地方政治の変容－愛知県の事例－

第14回：政党内閣の成立と第二次護憲運動 普通選挙法の成立と二大政党制の課題

第15回：「憲政の常道」とその崩壊 軍部の台頭と二大政党制の崩壊

定期試験

テキスト

特定のテキストは用いない。毎回、A4判両面印刷6ページ程度の資料を配布する。

参考書・参考資料等

- ・ 升味準之輔『日本政党史論』1～7巻（東京大学出版会、1965～1980年）
- ・ 佐々木隆『藩閥政府と立憲政治』（吉川弘文館、1992年）
- ・ 伊藤之雄『立憲国家と伊藤博文』（吉川弘文館、1999年）
- ・ 季武嘉也・武田知己『日本政党史』（吉川弘文館、2011年）
- ・ 中元崇智『明治期の立憲政治と政党』（吉川弘文館、2018年）
- ・ 中元崇智『板垣退助』（中央公論新社、2020年）

その他、各回のテーマに即して随時紹介する。

学生に対する評価

試験（70％）、提出物（ショートレポート）（30％）を総合して評価する。

授業科目名： 日本近現代史特論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 中元崇智
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標（近代日本における歴史観と地域社会） 本講義では、日本近現代史の社会・文化について、詳しく知識を得るとともに、日本史上における近現代史の文化における意義や特異性に関する理解を深める。 その際に、以下のような点を到達目標とする。①先行研究を読み込み、特に研究史上の画期をなした研究については、その発想や問題設定、根拠とした史料の実証性、論理展開の合理性など、多面的検証をおこなう力を身につける。②近代史上において成立した歴史観とその政治的背景について知識を深め、近代に成立した「地域社会」とは何か、その淵源と内実に迫り、他者に説明できるようになる。③講義の中で紹介した史跡を自ら訪ね、関連史料を調査することによって、史料調査能力・分析力を修得する。			
授業の概要 本講義では、日本近現代史の社会・文化について、最新の研究に基づき、当該事象およびその関連事象について詳しく知識を得るとともに、日本史上における意義や特異性に関する理解を深める。具体的には、近代日本における歴史観を対象とし、ある歴史観がどのように形成され、それが日本国内や地域社会にどのように定着したのかを考える。また、歴史観の形成過程で、ある人物がどのように伝説化され、顕彰されていくのか、それが地域に与える意味についても考察する。			
授業計画 第1回：明治維新観の研究（1） 明治維新観研究の課題と方法 第2回：明治維新観の研究（2） 「王政復古」 維新史の編纂とその維新観 第3回：明治維新観と人物像の変遷（1） 長州派の明治維新観と高杉晋作像の変遷 第4回：明治維新観と人物像の変遷（2） 佐幕派の明治維新観と井伊直弼・新選組像の変遷 第5回：明治維新観と人物像の変遷（3） 土佐派の明治維新観と坂本龍馬像の変遷 第6回：明治維新と自由民権運動 自由民権派の明治維新観 第7回：歴史的人物と伝説の形成（1） 西郷隆盛像の変遷と銅像の建設 第8回：歴史的人物と伝説の形成（2） 板垣退助岐阜遭難事件と「名言」の変遷 第9回：歴史的人物と伝説の形成（3） 地域における英雄の誕生－愛知県における日清戦争の英雄・原田重吉－			

第10回：歴史書の編纂過程を考える（1） 板垣退助監修『自由党史』の編纂過程と政治的背景
 第11回：歴史書の編纂過程を考える（2） 『自由党史』の口絵はなぜ、西郷隆盛なのか？
 第12回：歴史書の編纂過程を考える（3） 自由党激化事件・加波山事件はどのように描かれたか？
 第13回：歴史と顕彰運動（1） 日露戦争後の激化事件顕彰運動
 第14回：歴史と顕彰運動（2） 高知・岐阜の板垣退助顕彰運動と銅像の建立
 第15回：歴史観を考える 歴史観の形成過程と地域における顕彰運動について
 定期試験

テキスト

特定のテキストは用いない。毎回、A4判両面印刷6ページ程度の資料を配布する。

参考書・参考資料等

- ・佐々木克「西郷隆盛と西郷伝説」（『岩波講座日本通史 第十六巻』所収、一九九四年）
- ・田中彰『明治維新観の研究』（北海道大学出版会、1987年）
- ・宮地正人『歴史のなかの新選組』（岩波書店、2004年）
- ・中元崇智『明治期の立憲政治と政党』（吉川弘文館、2018年）
- ・中元崇智『板垣退助』（中央公論新社、2020年）

その他、各回のテーマに即して随時紹介する。

学生に対する評価

試験（70%）、提出物（ショートレポート）（30%）を総合して評価する。

授業科目名： 日本思想史特論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小川 和也
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
授業のテーマは、近世東アジアと日本の儒学。			
到達目標は以下のとおり。			
・ 東アジアという国際環境を視野にいて、儒学思想の展開を理解できる。 ・ 近世国家・社会において儒学思想が果たした役割を学ぶ。 ・ 近世から近代にかけて儒学思想が西欧近代の受け皿になった理由を修得する。 ・ 実際に儒学実践の書たる「牧民之書」を読み解くことで、儒学思想理解を深化する。			
授業の概要			
儒学は日本・中国・朝鮮という東アジアに共通する統治理念・思想であった。一方、日本は武士団による封建制、中国・朝鮮は科挙官僚制をとり、国家社会体制が異なることから、日本異質論がある。果たしてそうだろうか。この授業では、中国で刊行され、朝鮮半島を経て日本に渡来した『牧民忠告』『牧民心鑑』を素材とし、東アジアを縦断する儒学実践の書が、日本において近世から近代にかけてどのように展開し、政治・社会・経済にどのように影響を及ぼしたのかを探る。問題点の発見とそれへの解答を追求することで、この授業のテーマを各自が深めていく。			
授業計画			
第1回：ガイダンス：『牧民忠告』とは何か。漢籍『牧民忠告』の成立過程と日本への伝来過程を探る			
第2回：近世前期の「牧民之書」を読み解く 1 松平定綱『牧民後判』を読む			
第3回：近世前期の「牧民之書」を読み解く 2 関戸正雄『牧民後判国字解』を読む			
第4回：近世前期の「牧民之書」を読み解く 3 山鹿素行『牧民忠告諺解』を読む			
第5回：近世前期の「牧民之書」を読み解く 4 林鷲峰『牧民忠告諺解』を読む			
第6回：小括・近世前期の「牧民之書」を考える			
第7回：近世中期の「牧民之書」を読み解く 1 指月堂『牧民忠告俚諺鈔』を読む			
第8回：近世中期の「牧民之書」を読み解く 2 山本老迂斎『和語牧民忠告』を読む			
第9回：近世中期の「牧民之書」を読み解く 3 樋口好古『牧民忠告解』を読む			
第10回：小括・近世中期の「牧民之書」を考える			
第11回：近世後期の「牧民之書」を読み解く 1 長井旌峨『牧民心鑑訳解』を読む			

第12回：近世後期の「牧民之書」を読み解く2 平塚瓢斎『牧民心鑑解』を読む
 第13回：小括・近世後期の「牧民之書」を考える
 第14回：近代以降の「牧民之書」を考える 『牧民心書』『牧民心鑑』の訳註書を検討
 第15回：総括・「牧民之書」の世界 「牧民」思想と仁政イデオロギーの展開を検討
 定期試験は行わない

テキスト

小川和也『牧民の思想』平凡社・2008年

参考書・参考資料等

平石直昭『天』三省堂・1996年。その他、授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

平常点（100％）

授業科目名： 日本思想史特論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小川 和也
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマは、近世領主思想。 到達目標は以下のとおり。 ・ 書物の整理法を身につけている ・ 書物の史料論を修得する ・ 政において儒者が果たした役割を学ぶ ・ 書物を史料とした歴史研究の方法を理解する ・ 儒学思想と合わせて、近世の武士の統治思想の全体像を理解する			
授業の概要 近世の武士達の民衆統治の思想には、儒学だけではなく、軍学・兵学も大きな役割を果たした。この授業では、日本思想史特論Ⅱで学んだことを、実際に史料を読み検証しながら深化させる。具体的には、越後長岡藩の儒者・秋山景山の政治改革論と教育論に注目し、上書に現れる儒学と軍学・兵学、さらには藩や大名家の伝統がどのように関係するのか、また、藩士をどのように教育しようとしたのか考察し、藩政改革と藩学・藩士教育がいかに関係したのかを明らかにする。			
授業計画 第1回：ガイダンス：「藩学」「儒者」とは何か 第2回：秋山景山の上書を読む1 天保元年「言上手控」輪読 第3回：秋山景山の上書を読む2 天保2年「上君公書」輪読 第4回：秋山景山の上書を読む3 天保2年「諸役人心得一札」輪読 第5回：秋山景山の上書を読む4 天保3年「言上手控十七箇条」輪読 第6回：秋山景山の上書を読む5 天保3年「乍恐言上候事」輪読 第7回：秋山景山の上書を読む6 天保7年「奉詢書」輪読 第8回：小括・秋山景山の上書と藩政 第9回：秋山景山の教育論と「藩学」1 文政5年『夢の道しば』輪読 第10回：秋山景山の教育論と「藩学」2 文政6年「書取覚」輪読 第11回：秋山景山の教育論と「藩学」3 天保7年『教育談』の輪読1			

第12回：秋山景山の教育論と「藩学」4 元治元年「秋山家由緒記」

第13回：秋山景山の教育論と「藩学」5 文政9年『ふみの道しるべ』輪読

第14回：小括・秋山景山の教育論と「藩学」

第15回：総括・「藩学」と藩政

定期試験は行わない

テキスト

小川和也『文武の藩儒者 秋山景山』角川学芸出版・2011

参考書・参考資料等

史料講読で使用する史料は配布する。

学生に対する評価

平常点100%

授業科目名： 日本民俗学特論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小早川 道子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
衣食住・年中行事などの文化事象を通して、人々のくらしを立体的・総合的にとらえて考察することができる。また対象とする事象を愛知県周辺に求め、検証能力を身につけると同時に、他地域の類例との比較検討を行い、当該事象への理解をより深めることができる。			
授業の概要			
この授業では、こんにち地域住民が「伝統的」と考えている衣食住・年中行事などの文化事象の歴史的変遷（伝統の継承と変化）に関し、担当教員が取りあげる特定のテーマについて、日本民俗学の最新研究に基づき、当該事象について詳しく知識を得るとともに、日本文化に占める意義や特異性に関する理解を深める。特に当該事象についての研究史を学ぶことを必須とする。			
授業計画			
第1回：ガイダンス：民俗研究の方法 民俗研究における調査方法や事例分析について			
第2回：衣食住(1) 衣生活の歴史と変遷			
第3回：衣食住(2) 衣生活の地域性—名称、素材、伝承			
第4回：衣食住(3) 食生活の歴史と変遷			
第5回：衣食住(4) 食生活の地域性—味噌、郷土食			
第6回：衣食住(5) 住生活の歴史と変遷			
第7回：衣食住(6) 住生活の地域性—鳥居建てとカマヤ建て			
第8回：年中行事(1) 正月行事—大正月と小正月			
第9回：年中行事(2) 春の行事—三月節供			
第10回：年中行事(3) 夏の行事—五月節供			
第11回：年中行事(4) 盆の行事—七夕と盆行事			
第12回：年中行事(5) 秋・冬の行事—月見・月待ち			
第13回：生業(1) 農業と民俗—稲作儀礼と畑作儀礼			
第14回：生業(2) 漁業と民俗—漁民の知恵と儀礼			
第15回：まとめ 地域社会における伝統文化継承の意義を考える			
定期試験は実施しない。			

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業内において、必要に応じて周知する。

学生に対する評価

平常点（50%）、レポート（50%）

授業科目名： 日本民俗学特論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小早川 道子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
人生儀礼・信仰などの文化事象を通して、人々の暮らしを立体的・総合的にとらえて考察することができる。また対象とする事象を愛知県周辺に求め、検証能力を身につけると同時に、他地域の類例との比較検討を行い、当該事象への理解をより深めることができる。			
授業の概要			
この授業では、こんにち地域住民が「伝統的」と考えている人生儀礼・信仰などの文化事象の歴史的変遷（伝統の継承と変容）に関し、担当教員が取りあげる特定のテーマについて、日本民俗学の最新研究に基づき、当該事象について詳しく知識を得るとともに、日本文化に占める意義や特異性に関する理解を深める。特に当該事象についての研究史を学ぶことを必須とする。			
授業計画			
第1回：ガイダンス：民俗研究の方法 民俗研究における調査方法や事例分析について			
第2回：人生儀礼(1) 婚姻儀礼―娘遊びとヨバイ			
第3回：人生儀礼(2) 婚姻儀礼―仲人と結納			
第4回：人生儀礼(3) 婚姻儀礼―婚礼と披露			
第5回：人生儀礼(4) 産育儀礼―妊娠に関する儀礼			
第6回：人生儀礼(5) 産育儀礼―出産の変化と儀礼			
第7回：人生儀礼(6) 産育儀礼―子供の成長と儀礼			
第8回：人生儀礼(7) 葬送儀礼―死と通夜			
第9回：人生儀礼(8) 葬送儀礼―葬儀の変化			
第10回：人生儀礼(9) 葬送儀礼―死者供養と先祖観			
第11回：信仰(1) 津島信仰―御師と檀那場			
第12回：信仰(2) 秋葉信仰―秋葉講と代参			
第13回：信仰(3) 御嶽信仰―御嶽講と霊場			
第14回：信仰(4) 西国巡礼―若者の巡礼習俗			
第15回：まとめ 地域社会における伝統文化継承の意義を考える			
定期試験は実施しない。			

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業内において、必要に応じて周知する。

学生に対する評価

平常点（50%）、レポート（50%）

授業科目名： 世界史特論I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 多田哲、高遠拓児
			担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
グローバルな視野から歴史上の出来事を捉え直しつつ、自らの研究を進められるようになることを目標とする。			
授業の概要			
世界史全般への深い理解力を養えるよう、世界史のうちとくに前近代史に関する幅広い知識を提供する。			
授業計画			
第1回：（担当：多田哲、高遠拓児）科目の概説。世界史とは何か			
第2回：（担当：多田哲）ユーラシア西部世界の展開（1）西ヨーロッパ			
第3回：（担当：多田哲）ユーラシア西部世界の展開（2）ビザンツと北アフリカ			
第4回：（担当：多田哲）ユーラシア西部世界の展開（3）イスラーム帝国			
第5回：（担当：多田哲）中世ヨーロッパの展開と文化活動			
第6回：（担当：多田哲）中世ヨーロッパにおける民衆教化			
第7回：（担当：多田哲）中世ヨーロッパにおける聖人崇敬			
第8回：（担当：多田哲）中世ヨーロッパにおける帝国観念と民族意識			
第9回：（担当：高遠拓児）ユーラシア東部世界の展開（1）中華世界			
第10回：（担当：高遠拓児）ユーラシア東部世界の展開（2）遊牧世界			
第11回：（担当：高遠拓児）ユーラシア東部世界の展開（3）海域世界			
第12回：（担当：高遠拓児）近世東アジアの政治変動			
第13回：（担当：高遠拓児）近世東アジアの国際関係			
第14回：（担当：高遠拓児）近世東アジアの支配と法			
第15回：（担当：高遠拓児）近世東アジアの地域社会			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
特になし。			

参考書・参考資料等
『岩波講座世界歴史』第1巻，第6巻，第7巻，第8巻，第12巻
学生に対する評価
レポート（60％），口頭発表（40％）

授業科目名： 世界史特論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 米岡大輔、吉川次郎
			担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
世界の近現代史を学ぶ。グローバルな視野で歴史を捉え直せるようになることを目的とする。			
授業の概要			
欧米・アジア近現代史の重要事項を通時的に取り上げ、世界史に関する幅広い知識を養う。			
授業計画			
第1回：授業全体の説明（担当：米岡大輔、吉川次郎）			
第2回：ヨーロッパ近代① 近代の幕開け（担当：米岡大輔）			
第3回：ヨーロッパ近代② 国民国家と帝国（担当：米岡大輔）			
第4回：20世紀のヨーロッパ① 第一次世界大戦（担当：米岡大輔）			
第5回：20世紀のヨーロッパ② 戦間期（担当：米岡大輔）			
第6回：20世紀のヨーロッパ③ 第二次世界大戦（担当：米岡大輔）			
第7回：21世紀への展望① 戦後から冷戦へ（担当：米岡大輔）			
第8回：21世紀への展望② 新たな国際秩序の模索（担当：米岡大輔）			
第9回：アジア近代① アジア世界の変容（担当：吉川次郎）			
第10回：アジア近代② 帝国主義と植民地化（担当：吉川次郎）			
第11回：20世紀のアジア① 近代化への苦闘（担当：吉川次郎）			
第12回：20世紀のアジア② 2度の世界大戦（担当：吉川次郎）			
第13回：20世紀のアジア③ 現代アジアの独立（担当：吉川次郎）			
第14回：21世紀への展望① 経済発展と民主化（担当：吉川次郎）			
第15回：21世紀への展望② アジアとヨーロッパ（担当：吉川次郎）			
テキスト			
とくに指定しない。			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜資料を配付する。			

学生に対する評価

各回の授業で出す課題100%

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：千枝大志
歴史資料の保存・活用特論	選択科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 歴史資料を含む文化財の保存と活用に関する近年の動向やその議論を把握し、さらに「地方創生 SDGs」なる地域振興の持続性を模索する日本型 SDGs との接続面を検討した上で、その課題解決の糸口を模索することができる。 ・ 歴史資料の保存について、アーカイブズ学的な視点が有効であることを理解できる。 ・ 歴史資料の利活用について博物館教育学（ミュージアムエデュケーション）などの博物館学的な視点が有効であることを理解できる。 ・ 実学としての歴史学という視点と、それを模索・実践できる能力を滋養する。 ・ 歴史資料をめぐるグローバル化に対応できる能力を滋養する。 ・ アーカイブズ施設やその構築物（ホームページやデータベース）等を利活用することで、博物館施設とは異なる機能や活動の実際を理解できる。			
授業の概要			
歴史研究を行う上で、最も重視されるのが《歴史資料》である。歴史資料がなければ研究自体が成立しない。かつては、歴史資料の重要性を認識することにより滅失を防ぎ、大切に守り伝えるという古い伝統が広く普及していた。しかし近年では《限界集落》といったキーワードが象徴するように、地域での保存の担い手や諸施設は急激に減少し、その伝統の灯は消えつつある。また最近では、東日本大震災のように未曾有の大災害により多くの歴史資料が失われるケースも発生する。歴史資料の保存という側面では、《危機の世紀》であり、そのような過酷な状況にいかに対応できるかが、新時代の専門家の役割である。歴史資料を含む《文化財》をめぐる議論される「保存なくして活用なし」という言葉は、「活用なくして保存なし」という言葉へと変容しつつある。「保存」と「活用」という相反する要素に、バランスと折り合いをつけることこそが、現在の専門家に問われる力量であろう。特にこれらの要素は、日本社会のグローバル化の動向にも連動し、国内外に所在する日本関連の歴史資料をめぐる問題にも影響を及ぼしている。本講義では、両要素の現場での即戦力を滋養することをねらいとするが、その際、歴史学そのものよりもアーカイブズ学や博物館学といった歴史学関連の諸学問がその問題解決、特に「地方創生SDGs」なる地域振興の持続性を模索する日本型SDGsの典型的モデルに対応することで有効に作用するのではないかという視点に立脚しつつ授業を展開する。具体的には、関連知識等を講義形式でレクチャーした上で、体験を重視した演習・実習方式による授業スタイルによりその習得・修学の促進を図る。そのような授業方法により、学修到達目標に迫っていくが、同時にそれは《実学としての歴史学》の追求という可能性を模索する意義もあるということを念頭に入れて受講することを望む。			

授業計画

第1回：講義開講にあたって、画像資料（絵画・絵図・古地図）の活用事例Ⅰ
 第2回：画像資料（絵画・絵図・古地図）の活用事例Ⅱ
 第3回：画像資料（絵画・絵図・古地図）の活用事例Ⅲ
 第4回：アーカイブズ入門Ⅰ（アーカイブズとは何か）
 第5回：アーカイブズ入門Ⅱ（現状記録とアーカイブズ学）
 第6回：アーカイブズ入門Ⅲ（歴史資料の保存・活用の実例1）
 第7回：ミュージアムエデュケーションとしての陳列・展示Ⅰ（展示・陳列・展示解説・展示評価の意義）
 第8回：ミュージアムエデュケーションとしての陳列・展示Ⅱ（短期間内での収蔵資料陳列の計画・実施1）
 第9回：ミュージアムエデュケーションとしての陳列・展示Ⅲ（短期間内での収蔵資料陳列の計画・実施2）
 第10回：ミュージアムエデュケーションとしての陳列・展示Ⅳ（短期間内での収蔵資料陳列の計画・実施3）
 第11回：ミュージアムエデュケーションとしての陳列・展示Ⅴ（オープンキャンパス時の展示対応・展示解説・ミュージアムトーク）※休日実施（オープンキャンパス時）
 第12回：ミュージアムエデュケーションとしての陳列・展示Ⅵ（展示評価の実際・展示撤収）、アーカイブズ入門Ⅳ（歴史資料の保存・活用の実例2）
 第13回：文化財IPM実習Ⅰ（業者による文化財虫菌害調査の見学等）、アーカイブズ入門Ⅴ（歴史資料の保存活用の実例3）
 第14回：画像資料（絵画・絵図・古地図）の活用事例Ⅳ
 第15回：講義閉講にあたって、歴史資料（襖下張文書を含む古襖）の簡易的な防虫・除菌処理
 定期試験は実施しない

テキスト 千枝大志・川口淳編著『これであなたも歴史探偵！－歴史資料調査入門』（2022年8月31日発行 風媒社）

参考書・参考資料等

『岩波講座 日本歴史 第21巻－史料論〈テーマ巻2〉』（岩波書店 2015年）『古文書はいかに歴史を描くのか－フィールドワークがつなぐ過去と未来』（NHK出版 2015年）『近世・近現代 文書の保存・管理の歴史』（勉誠出版 2019年）『名古屋の江戸を歩く』（風媒社 2021年）『アーカイブズの構造認識と編成記述』（思文閣出版 2014年）『デジタルアーカイブの資料基盤と開発技法 記録遺産学への視点』（晃洋書房 2016年）『歴史文化を大災害から守る 地域歴史資料学の構築』（東京大学出版会 2014年）天野真志・後藤真編『地域歴史文化継承ガイドブック』文学通信 2022年

学生に対する評価 課題・レポート（50％）、授業中の取り組み姿勢（50％）

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：千枝大志
歴史資料の保存・活用演習	選択科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 歴史資料を含む文化財の保存と活用に関する近年の動向やその議論を把握し、さらに「地方創生 SDGs」なる地域振興の持続性を模索する日本型 SDGs との接続面を検討した上で、その課題解決の糸口を模索することができる。 ・ 歴史資料の保存について、アーカイブズ学的な視点が有効であることを理解できる。 ・ 歴史資料の利活用について博物館教育学（ミュージアムエデュケーション）などの博物館学的な視点が有効であることを理解できる。 ・ 実学としての歴史学という視点と、それを模索・実践できる能力を滋養する。 ・ 歴史資料をめぐるグローバル化に対応できる能力を滋養する。 ・ アーカイブズ施設やその構築物（ホームページやデータベース）等を利活用することで、博物館施設とは異なる機能や活動の実態を理解できる。			
授業の概要			
歴史研究を行う上で、最も重視されるのが《歴史資料》である。歴史資料がなければ研究自体が成立しない。かつては、歴史資料の重要性を認識することにより滅失を防ぎ、大切に守り伝えるという古い伝統が広く普及していた。しかし近年では《限界集落》といったキーワードが象徴するように、地域での保存の担い手や諸施設は急激に減少し、その伝統の灯は消えつつある。また最近では、東日本大震災のように未曾有の大災害により多くの歴史資料が失われるケースも発生する。歴史資料の保存という側面では、《危機の世紀》であり、そのような過酷な状況にいかに対応できるかが、新時代の専門家の役割である。歴史資料を含む《文化財》をめぐる議論される「保存なくして活用なし」という言葉は、「活用なくして保存なし」という言葉へと変容しつつある。「保存」と「活用」という相反する要素に、バランスと折り合いをつけることこそが、現在の専門家に問われる力量であろう。特にこれらの要素は、日本社会のグローバル化の動向にも連動し、国内外に所在する日本関連の歴史資料をめぐる問題にも影響を及ぼしている。本講義では、両要素の現場での即戦力を滋養することをねらいとするが、その際、歴史学そのものよりもアーカイブズ学や博物館学といった歴史学関連の諸学問がその問題解決、特に「地方創生SDGs」なる地域振興の持続性を模索する日本型SDGsの典型的モデルに対応することで有効に作用するのではないかという視点に立脚しつつ授業を展開する。具体的には、関連知識等を講義形式でレクチャーした上で、体験を重視した演習・実習方式による授業スタイルによりその習得・修学の促進を図る。そのような授業方法により、学修到達目標			

に迫っていくが、同時にそれは《実学としての歴史学》の追求という可能性を模索する意義もあるということを念頭に入れて受講することを望む。

授業計画

- 第1回：開講にあたって、歴史資料のグローバル化Ⅰ（国際会議・国際学会への参加方法）
 第2回：歴史資料のグローバル化Ⅱ（海外所在の歴史資料の調査法と外国人研究者への対応）
 第3回：所蔵資料（平野家文書等）の再整理作業・リスト化・デジタル撮影Ⅰ
 第4回：所蔵資料（平野家文書等）の再整理作業・リスト化・デジタル撮影Ⅱ
 第5回：所蔵資料（平野家文書等）の再整理作業・リスト化・デジタル撮影Ⅲ
 第6回：所蔵資料（平野家文書等）の再整理作業・リスト化・デジタル撮影Ⅳ
 第7回：所蔵資料（平野家文書等）の再整理作業・リスト化・デジタル撮影Ⅴ
 第8回：アーカイブズ見学実習Ⅰ（愛知県公文書館の見学・資料閲覧）
 第9回：アーカイブズ見学実習Ⅱ（名古屋市市政資料館の見学・資料閲覧、古地図散歩体験）
 第10回：歴史資料（下張文書）の緊急レスキューⅠ（古襖の解体作業）
 第11回：歴史資料（下張文書）の緊急レスキューⅡ（調書作成等の現状記録）
 第12回：歴史資料（下張文書）の緊急レスキューⅢ（調書作成等の現状記録）
 第13回：歴史資料（下張文書）の緊急レスキューⅣ（デジタル撮影等の現状記録）
 第14回：文化財IPM実習（展示室内の低湿度改善等）
 第15回：講義閉講にあたって・補足・調整等

定期試験は実施しない

テキスト

千枝大志・川口淳編著『これであなたも歴史探偵！－歴史資料調査入門』（2022年8月31日発行 風媒社）

参考書・参考資料等

『岩波講座 日本歴史 第21巻－史料論〈テーマ巻2〉』（岩波書店 2015年）『古文書はいかに歴史を描くのか－フィールドワークがつなぐ過去と未来』（NHK出版 2015年）『近世・近現代 文書の保存・管理の歴史』（勉誠出版 2019年）『名古屋の江戸を歩く』（風媒社 2021年）『アーカイブズの構造認識と編成記述』（思文閣出版 2014年）『デジタルアーカイブの資料基盤と開発技法 記録遺産学への視点』（晃洋書房 2016年）『歴史文化を大災害から守る 地域歴史資料学の構築』（東京大学出版会 2014年）天野真志・後藤真編『地域歴史文化継承ガイドブック』文学通信 2022年

学生に対する評価

課題・レポート（50％）、授業中の取り組み姿勢（50％）

授業科目名： 歴史資料と歴史教育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 真島聖子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
(1) 歴史学習における課題（問い）を吟味し、問いを設定した授業を構想できる。 (2) 課題（問い）の追究を促す資料を吟味し、模擬授業で活用することができる。 (3) 適切な資料を基に、根拠を踏まえて考察するよう指導を工夫することができる。			
授業の概要			
授業形態は、講義（演習を含む）とする。			
本授業では、「歴史資料と歴史教育」をテーマに、以下の3点について検討する。			
(1) 諸資料から日本の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を生徒に身に付けるようにするためには、どのような歴史の授業を行えばよいのか。 (2) 生徒が必要な資料を選択・活用して、社会的事象を様々な角度から捉え、各時代の特色を考察するためには、どのような歴史の授業を行えばよいのか。 (3) 時代の転換における変化が、その後の展開にどのような関係性をもつかについて、生徒が資料から読み取った根拠に基づいて表現するためには、どのような歴史の授業を行えばよいのか。			
上記の講義を踏まえた上で、演習の時間には、高等学校地理歴史科の「日本史探究」の授業を想定した模擬授業を行い、模擬授業検討や振り返り通して、歴史資料を活用した歴史教育のあり方について議論する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：事象の意味や意義、関係性を考察するための課題（問い）を設定する			
第3回：時系列に関わる問い 【時期や年代】 【過去の理解】			
第4回：諸事象の推移に関わる問い 【変化と継続】			
第5回：諸事象の比較に関わる問い 【類似と差異】 【意味や意義と特色（特徴）】			
第6回：事象相互のつながりに関わる問い 【背景や原因】 【影響や結果】 【転換や画期】			
第7回：現在とのつながりに関わる問い 【歴史と現在】 【歴史的な展望】 【自己との関わり】			
第8回：資料に「問いかける」学習			
第9回：様々な資料の活用とその事例			

第10回：デジタル化された資料の活用

第11回：地域に残る遺構や土地利用の変遷の活用

第12回：模擬授業の発表・協議 歴史学習における課題（問い）の設定

第13回：模擬授業の発表・協議 歴史学習における課題追究のための資料活用

第14回：模擬授業の発表・協議 歴史学習における資料を基にした考察

第15回：授業のまとめ・振り返り「歴史資料を活用した歴史教育のあり方」

定期試験

テキスト

文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 地理歴史編』2018。

参考書・参考資料等

・島村圭一/永松靖典『問いでつくる歴史総合・日本史探究・世界史探究 - 歴史的思考力を鍛える授業実践』東京法令出版、2021。

・前川 修一/梨子田 喬/皆川 雅樹『歴史教育「再」入門—歴史総合・日本史探究・世界史探究への“挑戦”』清水書院、2019。

学生に対する評価

（1）歴史学習における課題（問い）を吟味し、問いを設定した授業を構想できたか。

（2）課題（問い）の追究を促す資料を吟味し、模擬授業で活用することができたか。

（3）適切な資料を基に、根拠を踏まえて考察するよう指導を工夫することができたか。

上記の（1）～（3）について、授業における課題30%、模擬授業40%、最終レポート30%で評価する。

授業科目名： 歴史科教育特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 澤田 哲
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ) 歴史教育史を踏まえた授業方法の探究 (到達目標) 歴史教育の歴史からその教授意義を理解しそれを基に授業方法を構想できる			
授業の概要 歴史教育に関する言説について日本・外国のそれを比較した上で授業方法を追究する。			
授業計画 第1回：なぜ歴史を学ぶのか1 伝統的歴史学と歴史教育①ナショナル・ヒストリーについて 第2回：なぜ歴史を学ぶのか2 伝統的歴史学と歴史教育②欠如モデルについて 第3回：なぜ歴史を学ぶのか3 伝統的歴史学と歴史教育③記憶の排除について 第4回：なぜ歴史を学ぶのか4 歴史学の発達と歴史教育①20世紀における史学の展開について 第5回：なぜ歴史を学ぶのか5 歴史学の発達と歴史教育②新しい史学の展開について 第6回：なぜ歴史を学ぶのか6 総論と応用（討論） 第7回：なぜ歴史を教えるのか1 日本ではどのように歴史教育がなされてきたのか1 戦前 第8回：なぜ歴史を教えるのか2 日本ではどのように歴史教育がなされてきたのか2 戦後 第9回：なぜ歴史を教えるのか3 中国ではどのように歴史教育がなされてきたのか1 伝統 第10回：なぜ歴史を教えるのか4 中国ではどのように歴史教育がなされてきたのか2 現代 第11回：なぜ歴史を教えるのか5 西欧ではどのように歴史教育がなされてきたのか1 近代 第12回：なぜ歴史を教えるのか6 西欧ではどのように歴史教育がなされてきたのか2 戦争 第13回：なぜ歴史を教えるのか7 総論と応用（討論） 第14回：歴史を科学として教えられるか 第15回：科学としての歴史であればどのように教えるべきか（討論）			
テキスト 特記事項なし			
参考書・参考資料等 『歴史学のトリセツ』『History:Why It Matters』、『歴史教育の比較史』等			

学生に対する評価

提出レポートによる

授業科目名： 歴史科教育演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 澤田 哲
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ)「歴史的な見方・考え方」を育む教育方法とは何か (到達目標)「歴史的な見方・考え方」を獲得させるイメージを明確に持ちそれを授業方法として実践できる			
授業の概要 「歴史的な見方・考え方」を常に意識しながら生徒・教員の立場になりアクティブ・ラーニングの模擬授業を行う			
授業計画 第1回：歴史という知の領域ではどのような方法によって知識を得ているのか 討論 第2回：歴史という知の領域ではどのような方法によって知識を得ているのか 演習 第3回：ナショナル・ヒストリーの枠をはずす授業を構想してみる 情報収集と討論 第4回：ナショナル・ヒストリーの枠をはずす授業を構想してみる 指導案作成 第5回：ナショナル・ヒストリーの枠をはずす授業を構想してみる 模擬授業 第6回：欠如モデルを乗り越える授業を構想してみる 情報収集と討論 第7回：欠如モデルを乗り越える授業を構想してみる 指導案作成 第8回：欠如モデルを乗り越える授業を構想してみる 模擬授業 第9回：記憶理論を取り入れた授業を構想してみる 情報収集と討論 第10回：記憶理論を取り入れた授業を構想してみる 指導案作成 第11回：記憶理論を取り入れた授業を構想してみる 模擬授業 第12回：「歴史的見方・考え方」に基づいて模擬授業を振り返ってみる 第13回：未来の歴史授業を構想する ICTは生かせるか 演習 第14回：未来の歴史授業を構想する SDGsの考え方は生かせるか 演習 第15回：未来の歴史授業を構想する Agencyの考え方は生かせるか 演習			
テキスト 特記事項なし			

参考書・参考資料等

『Oxford IB Programme Testbook』 『中等社会系教育』 『21世紀の教育に求められる「社会的な見方・考え方」』 等

学生に対する評価

提出レポートによる